

パーソナル無線機  
**Action55** GO

ヤエスビツラ FYA-905A

取扱説明書



八重洲無線株式会社

このたびは YAESU パーソナルトランシーバ FYA-905 A をお買いあげいただきまして、まことにありがとうございました。

本製品は厳しい品質管理のもとに生産されておりますが、万一運搬中の事故などにもない、破損またはご不審な個所がございましたら、お早めにお買い上げいただきましたお店またはもよりの当社営業所サービスにお問い合わせください。

#### ●お願い

正しい操作方法をご理解いただくために、お手数でも取扱説明書は最後までお読みくださるようお願いいたします。操作方法に誤りがあると、本製品の性能が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬトラブルや故障の原因になることがあります。

操作方法の誤りが原因で故障を生じた場合は保証期間中でも有償扱いにさせていただきますのでご注意ください。

#### ●アフターサービス

万一故障のときはお買い上げいただきました販売店、もよりの営業所サービスまで修理をご依頼ください。営業所サービスステーションの所在地、電話番号はこの取扱説明書のうら表紙に記載してあります。

- ①保証期間はお買い上げの日より1ヵ年です。くわしくは添付してある保証書をご覧ください。
- ②保証期間をすぎた修理の場合、部品代の他に規定の技術料をいただきます。

製品の改良のために、取扱説明書の写真などが一部製品と異なることがあります。あらかじめご了承ください。

# 目次

	ページ
ご使用の前に.....	2
付属品.....	3
本機の特長.....	4
各部の名称と働き.....	5
ROMカートリッジの取付方法.....	9
車への取付方法.....	10
車載局の電源接続.....	12
基地局の設置方法.....	15
基地局の電源接続.....	16
基地局用電源 FYP-80との接続.....	17
アンテナの接続.....	18
マイクロホンMH-10csの接続.....	19
オプション外部スピーカーSP-55の接続.....	20
使い方(基本操作).....	21
1. 準備.....	21
2. 群番号のセット.....	23
3. CQコール.....	27
4. パーソナルコール.....	34
5. リコール.....	41
6. モニター.....	43
7. モニターコール.....	45
その他の機能と動作.....	47
故障?と思う前に.....	51
定格.....	53
オプション.....	54
パーソナル無線に使用する電波の性質.....	57

## ご注意

付属の“ROM”<sup>(ROM)</sup>カートリッジは、必ず免許申請を行ってから本体へ取付けて下さい。一度本体へ取付けると、取りはずすことができない構造になっていますから、免許の申請ができなくなります。

## ご使用前に

- 免許の申請は、添付の「パーソナル無線免許申請委任の手引」をよくお読み頂き、財団法人電波振興会へ申請を行ってください。
- 本機は免許番号が書き込まれた“ROM”<sup>(ROM)</sup>カートリッジを取付けなければ電波の発射ができません。付属の“ROM”<sup>(ROM)</sup>カートリッジを免許の申請を行う際に、必要書類と共に付属の専用封筒で財団法人電波振興会へ送付してください。
- 本機の電源は、直流13.8Vマイナス接地となっています。直流24Vでご使用の際は電圧変換コンバータFDC-2を併用してください。詳細は販売店へご相談ください。
- 本機に接続するアンテナは、パーソナル無線普及促進協議会認定品である当社純正アンテナをご使用ください。
- 本機を分解したり改造して使用することは、電波法で禁止されています。

## 付属品

箱の中には、免許申請等の重要書類、“(ROM)”カートリッジ、マイクロホンなどの付属品が入っています。付属品を一つ一つお確かめください。

- ① 取扱説明書..... 1
- ② 保証書..... 1
- ③ リモコンスイッチ付マイクロホン..... 1  
(本体に接続します)
- ④ マイクロホン取付金具..... 1 式
- ⑤ 電源接続用ケーブル..... 1  
(本体背面より出ている電源ケーブルに接続します)
- ⑥ モービルブラケット、取付補助金具..... 各 1
- ⑦ モービルブラケット取付ビス..... 1 式
- ⑧ 予備ヒューズ (4 A) ..... 1
- ⑨ “ROM” カートリッジ..... 1  
(免許申請書類と共に財団法人電波振興会へ送ります)
- ⑩ 免許申請委任の手引..... 1
- ⑪ 委任状..... 1
- ⑫ 技術基準適合証明書..... 1
- ⑬ 郵便振替払込用紙..... 1
- ⑭ 送付用封筒..... 1
- ⑮ 返送用封筒..... 1

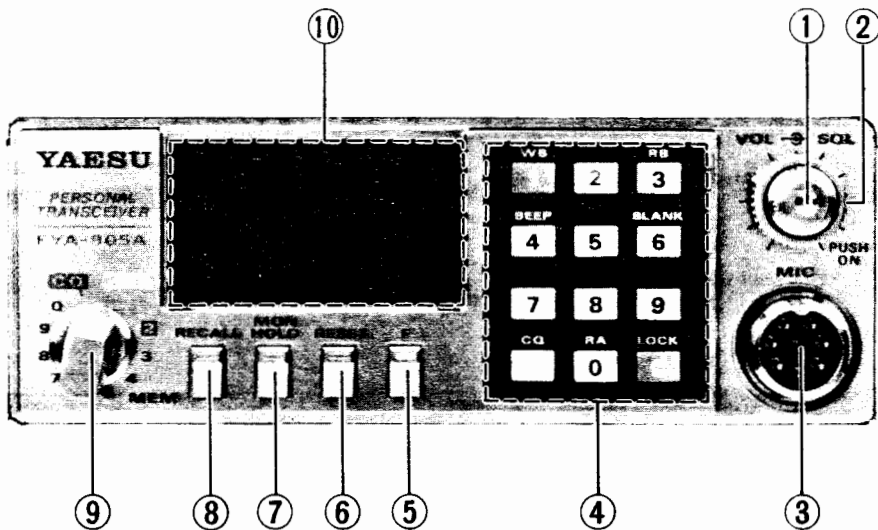
※ 取扱説明書、保証書は大切に保存してください。

※ 申請書類は、よくお読みになり必要事項を正しく書き込み、“(ROM)”カートリッジと共に財団法人電波振興会へ送ります。

## 本機の特長

- 遠くの局とも交信できるトップクラスの送受信性能をもっています。
- 小型、軽量ですから車への取付けが簡単です。
- 消費電流が少ない。
- 口径の大きな内蔵スピーカの採用により、走行中の車の中でも明瞭な通話ができます。
- 交換不要のバックアップ電池を内蔵していますので電源を切ったままでも6ヶ月以上は記憶した群番号の内容を保持します。またこれにより、電源の配線は、赤（プラス）、黒（マイナス）の2本ですみます。
- 通話チャンネルのモニターは、ステップモニター（1回押す）と、サーチモニター（1秒以上押し続ける）の2つの機能があり、サーチモニターのとき通話中のチャンネルで自動的に5秒間停止し、他局の通話をモニターできます。（チャンネル順はランダムでエンドレスに動作をします）
- ディスプレイ部は、グリーンの透過照明付広角度液晶表示器の採用により鮮明です。
- ディスプレイ内にS/POメーターをはじめそれぞれの動作状態が表示され、同時に信号音で本機の動作状態を知らせます。
- 呼び出しを受けると、電話器のように“ピロロ、ピロロ”の電子音で知らせてくれます。
- 車内でも使いやすいメモリーツマミの採用や、パネルの右部に配置したキーボードなど、操作性を重視したパネル設計で安全運転をお約束いたします。
- マルチファンクションキーで多機能の動作ができます。
- 通話チャンネルメモリーA(WA; 5分メモリータイマー)、および通話チャンネルメモリーB(WB; 15分メモリータイマー)機能により、群番号と通話チャンネルを各々の時間記憶することができます。
- 3通りのメモリー読み出し方法のTMS（トリプルメモリーセレクト）方式により、操作が簡単です。

## 各部の名称と働き



### ① VOL (ボリューム)

電源スイッチと、音量調節のつまみです。

### ② SQL (スケルチ)

スケルチ調節つまみです。

### ③ MIC (マイク)

マイクロホンを接続するジャックです。

### ④ キーボード(1~0, M, C)

群番号の設定とF (ファンクション) キーを併用して、BEEPやLOCKなどの動作を命令する時に使います。(⑤ F キーの項目参照)

### ⑤ F (ファンクション) キー

このキーを押してから13460 MCのキーを押すとキーボタンの上に印刷してある動作になります(F-4と押すBEEPは操作音ピロ、呼出音ピロロ、ピロロを止める操作、F-6と押すBLANKは群番号表示を消す操作、F-Mと押すCQは群番号“00000”を簡単に設定する操作、F-Cと押すLOCKは不用意にキーボードに触れても動作状態が変わらないようロックする操作です。もう一度同じキー操作をすると元に戻ります。

WB, RB, RAについては47ページを参照してください。

## ⑥ RESET (リセット)

通話を終了したとき、モニター状態から受信待機状態にするときなど基本の状態に戻す時に使用します。

## ⑦ MON/HOLD (モニター/ホールド)

通話チャンネルをモニターするとき、群番号“00000”を使用中に呼び出しを受けた時、およびモニター時の継続受信を行うときに使用します。

## ⑧ RECALL (リコール)

通話中に交信が途絶えてしまったときなど、相手の再呼び出しを行うときに使用します。

## ⑨ MEM (メモリー)

CQ呼び出し、群番号の設定、およびメモリー機能の選択を行います。

### LOCK操作

不用意にキーボードに触れても動作状態が変わらないようロックすることができます。(Fキーを押し、続いてディスプレイ左下にFを表示している5秒以内にCキーを押す)

ただし、MON/HOLD、RECALL、RESETキー、およびFキーを押した後に押す1346MOCのキーはロック中でも受け付け、キーの上側に表示してある動作を行います。

### BEEP操作

夜間運用など操作/動作確認音が耳ざわりな時には止めることができます。(Fキーを押し、続いて4キーを押す)

### BLANK操作

使用している群番号を他人に知られたくない時には群番号表示(呼ばれて応答しなかった時のメモリー番号表示も)を消すことができます。(Fキーを押し、続いて6キーを押す)

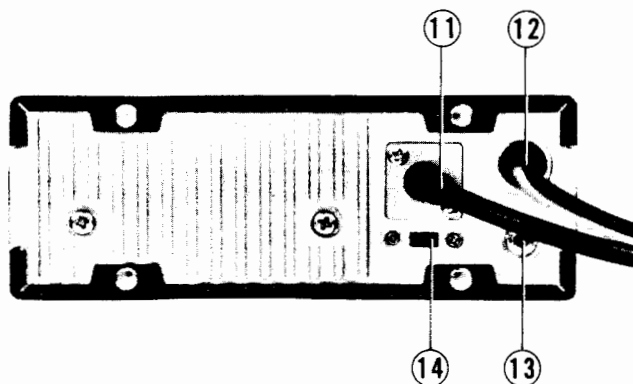
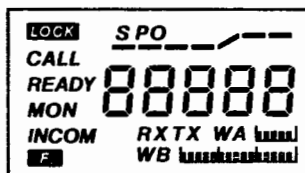
以上の命令を解除するには、再度F-4など同じキーを押してください。(これらの命令は電源スイッチを切るとすべて解除になります)

(47ページ参照)



## ⑩ ディスプレイ

CALL, READY, MONなどの各動作状態をはじめ、群番号, S(信号強度), P Oなどを表示します。



### ⑪ アンテナ接続ケーブル

アンテナ側のアンテナ接続ケーブルと接続します。

### ⑬ EXT. SP (エクスターナルスピーカー)

外部スピーカーを使うときに使用します。

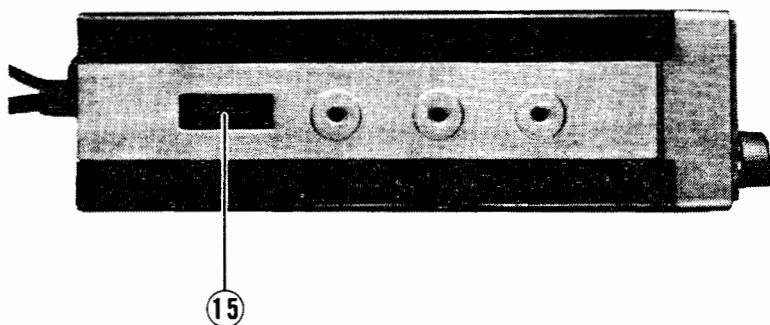
### ⑫ 電源ケーブル

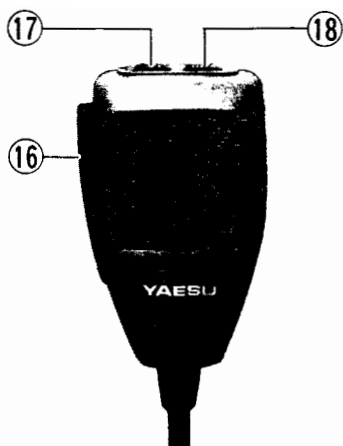
電源側のケーブルと接続します。

### ⑭ LAMP (ランプ)

ディスプレイの照明スイッチです。

### ⑮ "ROM" 取付位置です。





⑬ PTT (プッシュツットーク)

相手呼び出すとき、および通話するときに使用します。

⑭ SEL (セレクト)

CQ呼び出し、およびメモリー機能に記憶してある群番号の選択に使用します。

⑮ RES (リセット)

通話を終了したとき、およびモニター状態から受信待機状態にするときに使用します。

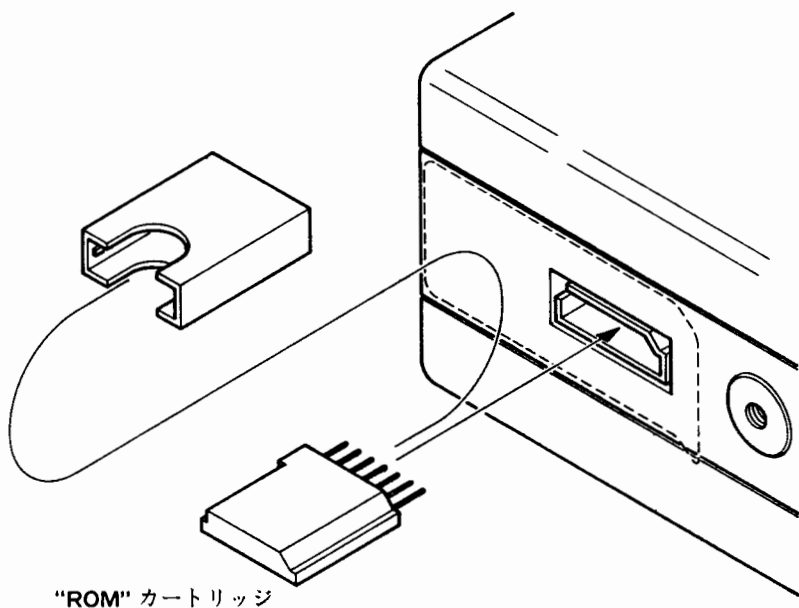
## ROMカートリッジの取付方法

無線機を車や基地局へ設置する前に、財団法人電波振興会から免許状と一緒に返送された<sup>(ROM)</sup>“ROM”カートリッジを無線機に装着します。

- ① ROMカートリッジを装着する場合は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
- ② ROMカートリッジは、本体左側面のシールをはがしカートリッジソケットに装着します。
- ③ 書込済ROMカートリッジを保護カバーより取り出し、下図を参考に正しい方向で挿入します。ピンが曲がったりすると装着できないことがありますから、カバーを外した時ピンにふれたりしないで、静かに完全に押し込んでください。

なお、電波振興会より返送されたカートリッジを取り付けなければ送信することはできません(受信は可能)。また一度取付けたカートリッジは外すこともできませんのでご注意ください。

ROMカートリッジなしでの操作は、46ページROMカートリッジなしでの操作のしかたを参照してください。



# 車への取付方法

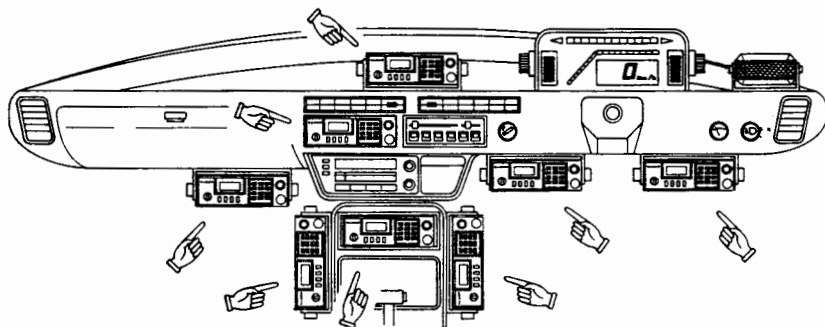
## 車載時の注意事項

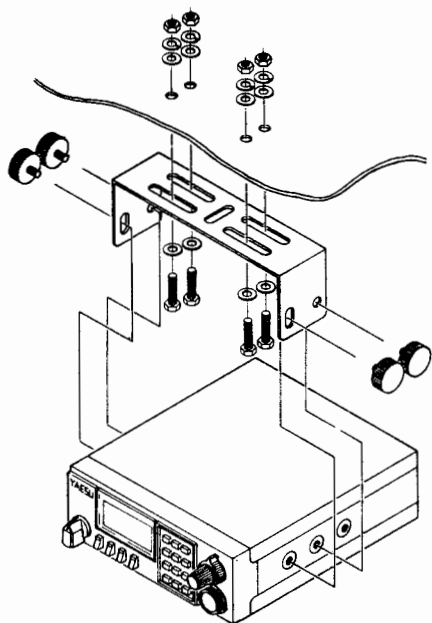
- 無線機の取付場所は、運転に支障のないよう安全と操作性を考えてください（急停車などを行った時同乗者の危険防止にも配慮してください）。
- 無線機をダッシュボードやコンソールボックスに組込む場合には、外部スピーカー-SP-55の使用をおすすめします。

無線機の取付け、取外しをする際は、電源スイッチを切り、必ず電源ケーブルとアンテナの同軸ケーブルを外してから行って下さい。

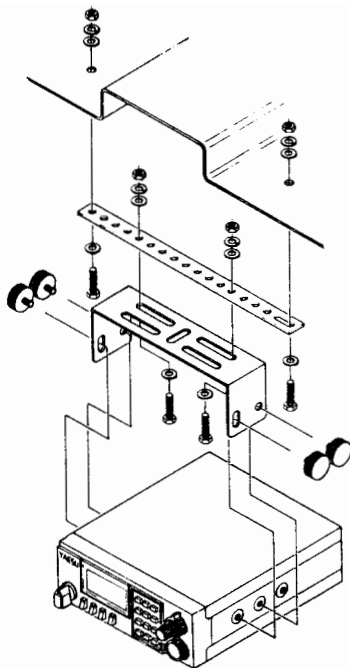
## 取付方法

1. 取付場所が決定したら **モバイルブラケット**（コ字型の取付金具）をひとまず外し、取付穴を型紙にして穴位置を決定します。
2. 取付ネジは直径5mmですから、5.5mmから6mm程度の取付穴が必要です。
3. 取付には付属のビス、ワッシャ、ナットを使用して、振動等でゆるまないよう確実に固定してください。
4. 無線機を設置しようとする場所に固定するのに適当な支持物がない場合には、取付補助金具を利用して固定してください。





※モービルブラケットを取付けてから無線機を固定します。



※補助金具を利用して固定します。



MMB-26

車載から基地局へと移動に便利な別売りのワンタッチ型モービルブラケット MMB-26 も用意してあります。お買上げ店にご相談ください。

## 車載局の電源接続

電源の接続作業をする際は、必ず次の手順で行ってください。なお、FYA-905Aは12V型バッテリーを使用している車で直接に使える設計です。大型のトラックやバスなど24V型バッテリー使用の車では24V→12Vの電圧変換コンバーターFDC-2を併用して下さい。詳細は販売店にご相談ください。

- まず、バッテリーの-（マイナス）端子の接続をターミナルごと外して、バッテリーのマイナス側をボデーから必ず切りはなしてください。
- 電源ケーブルをバッテリーの端子に接続する時は、必ず電源スイッチを切り、次のページのAの部分をはずしておいてから行ってください。
- バッテリー端子への接続は、赤線を+（プラス）、黒線を-（マイナス）に接続してください。
- アンテナの無線機への接続は、電源ケーブルの接続が完了し、電源スイッチを入れて誤接続でないことを確認してから行ってください。

### (1)電源をバッテリーの端子から直接取ってください。

電源ケーブルの赤線をバッテリーの+（プラス）ターミナル、黒線を-（マイナス）ターミナルに接続し、接続に誤りがないか確認してから-（マイナス）側のターミナルをバッテリーに元通り接続します。

### (2)電源をヒューズボックスの端子から取ることもできます。

電源ケーブルの赤線をヒューズボックスから出ているアクセサリ用電源端子に接続します。

（アクセサリ用電源端子が無い車種の場合には、イグニッションキーをOFFにすると電源の切れるACC端子に接続します。）

電源ケーブルの黒線をバッテリーの-（マイナス）用ターミナルに接続します。

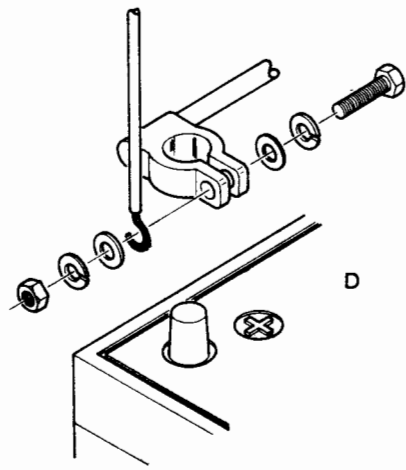
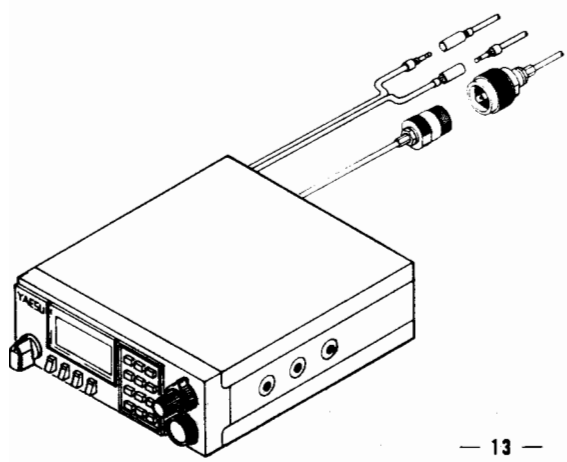
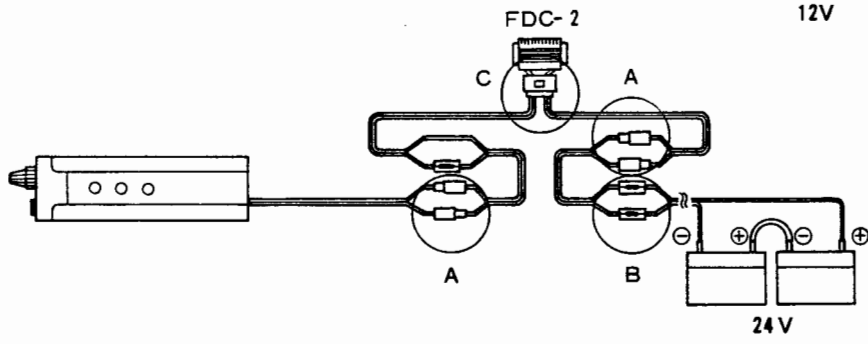
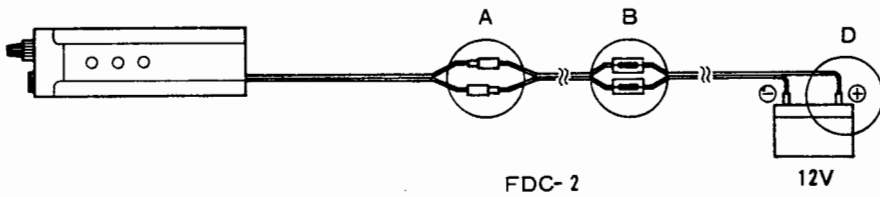
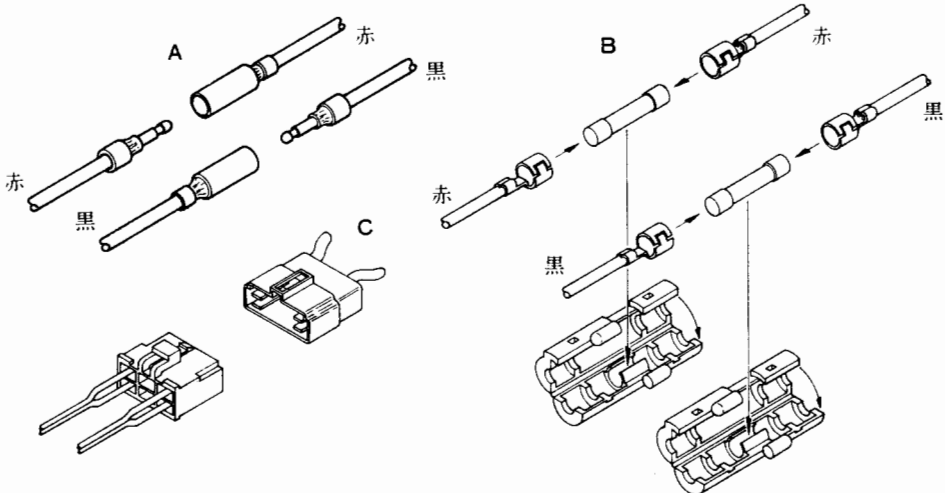
接続に誤りがないかを確認してから、-（マイナス）側のターミナルをバッテリーに元通り接続します。

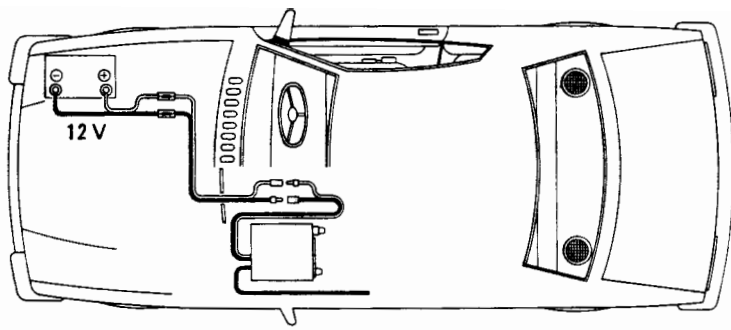
### (3)シガレットライター端子から電源を取ることもできます。

代替車などに臨時にパーソナル無線機を移す場合などで電源を取る便利な方法です。

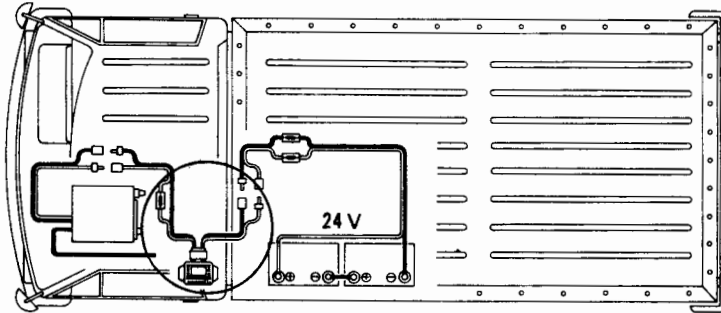
シガレットライター用プラグ（販売店、カー用品ショップなどでお求めください）に電源ケーブルを半田付して電源を取って下さい。

この場合、プラグの先端が+（プラス）で赤線、脇が-（マイナス）で黒線になります。





12Vバッテリー車の場合



FDC-2を併用する

24Vバッテリー車の場合

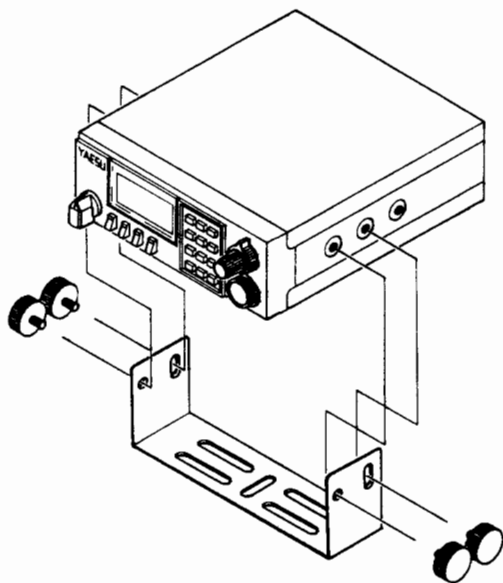
### ご 注 意

1. エンジンルーム内の電源ケーブルの引き回しは、エンジンの上など熱の高くなる部分をさけて配線してください。
2. エンジンルームから車内に通す部分に当たる電源ケーブルは、前後20-30cmには保護用テープを巻くなどの処置をしてください。
3. (1)のバッテリーから直接電源を取る方法では、無線機の電源スイッチを切り忘れた場合、バッテリーが消耗して次にエンジンをかける時に支障を生ずることがありますのでご注意ください。
4. (2), (3)の方法では、イグニッションノイズ、ワイパーモーターや方向指示ランプ用スイッチが発生する雑音が入ることがあります。また、エンジン始動時の電圧低下で無線機がリセットされたりして、すでに設定してあった運用条件が変わっていることもありますから直接バッテリー端子に接続する(1)の方法をおすすめします。
5. バッテリーの状態によっては、(1)の方法によってもリセットされることがありますから、充電などバッテリーを点検してください。



## 基地局の設置方法

パーソナル無線機FYA-905Aの内蔵スピーカーは、底面にありますから、車載用取付金具を下側に付け適当な角度に固定してご使用ください。卓上などに直接置いて使用する場合は外部スピーカーSP-55の使用をおすすめします。



FYA-905Aを肩かけで運用できる  
キャリングセットCSC-8を使用する  
と携帯局としてもご使用になれます。

(携帯時に便利なヘッドセットYH-1,  
スピーカーマイクMH-10もありま  
す。56ページを参照してください)



CSC-8

## 基地局の電源接続

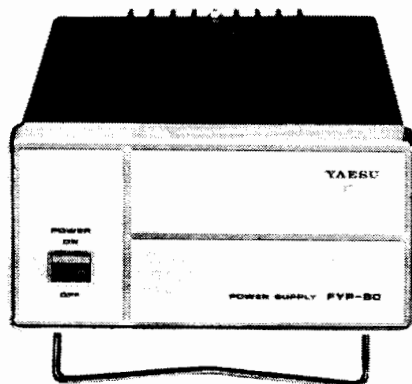
パーソナル無線機FYA-905Aは、電源に直流13.8V（12V型バッテリー）で使用するように設計してあります。

基地局で使用する場合、12V型バッテリーと充電器の組み合わせでご使用いただいても結構ですが、あらたにご用意になる場合は、基地局用のFYP-80型専用交流電源をご使用ください。定格は下記の通りです。

### 主な定格

入力電源	交流100V	50/60Hz
出力電圧	直流13.8V	
出力電流	最大 3A	
ケース寸法	幅118×高57×奥行237mm	
重 量	約2.2kg	

なお、一般に市販されている交流電源や充電器併用電源などの中には送信電波の回り込みを起すもの、リップル(残留交流成分)の多いもの、異常に発熱して連続使用に不適なものがありますからご注意ください。

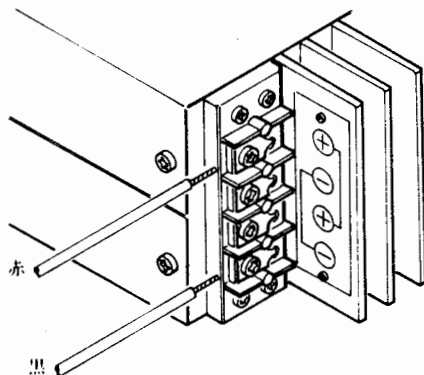
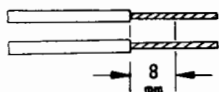


FYP-80

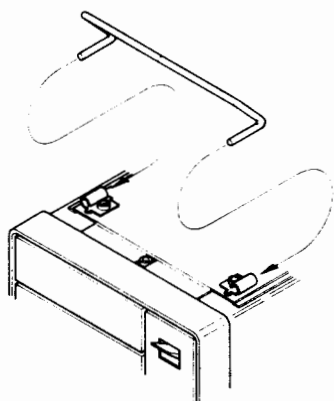
## 基地局用電源FYP-80との接続

交流100V用電源FYP-80の背面部に下図のような出力端子があります。この端子に無線機の電源ケーブルを接続します。

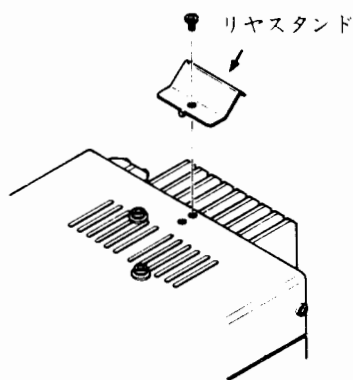
- ① 電源ケーブル先端の銅線の部分を良くねじってから絶縁ビニールの部分より約8mmの位置で切り落します。(赤線、黒線とも)
- ② 出力端子の一番上のネジをゆるめ、赤線の先端を板の下へ一杯に差し込んでからネジを締めつけます。
- ③ 同様に出力端子の一番下のネジをゆるめ、黒線の先端を板の下へ差し込み締めつけます。



FYP-80には操作性と放熱効果を上げるためワイヤスタンドとリヤスタンドが付属しています。ワイヤスタンドは後方から差し込み、また、リヤスタンドは右図を参考に組立ててください。



ワイヤスタンドの取付方法



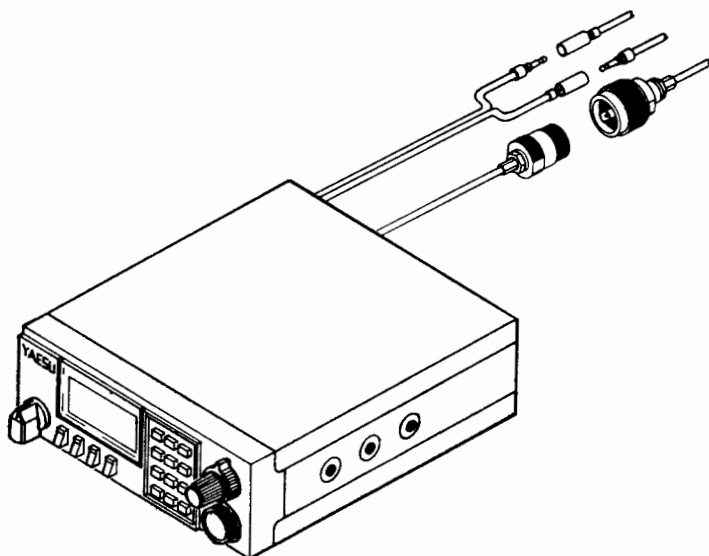
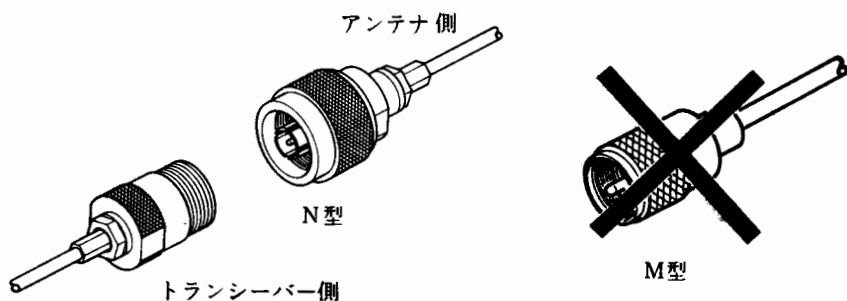
リヤスタンドの組立方法

## アンテナの接続

パーソナル無線のアンテナは必ずパーソナル無線普及促進協議会認定品の当社N型コネクター付の製品を使用してください。(54ページ参照)

無線機後面より出ている同軸ケーブル先端のN型コネクター(メス型)にアンテナ(アンテナ基台)から引き込んだ同軸ケーブル先端のN型コネクター(オス型)をさし込み、外側のシェルを時計方向に回して完全に接続してください。

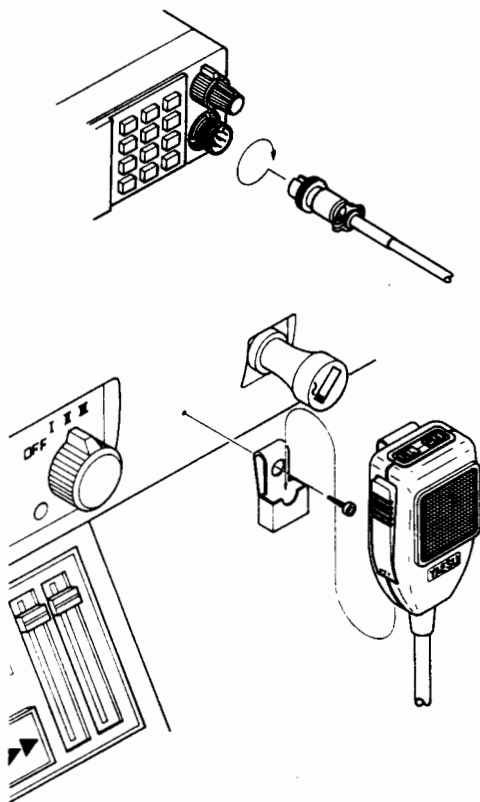
不完全な接続では、受信感度がとれず、またこの状態での送信は無線機本体を損傷することがあります。



## マイクロホンの接続

マイクロホンの接続は、無線機の電源スイッチが切れていることを確認してからプラグを本体前面の8ピンのマイクロホンジャックのキーに溝を合わせて差し込み、プラグ外側のリングで確実に固定します。

マイクロホンは付属のMH-10c<sub>1</sub>などの認定品以外は使用できません。認定品以外のマイクロホンでは、たとえ同じプラグ付のものでもパーソナル無線用の機能がありませんし接続も異なり、無線機本体を破損するおそれもあります。



オプションでMH-10c<sub>1</sub>と同型のスピーカーマイクロホンMH-10c<sub>2</sub>、お車のサンバイザーなどに取り付けできるフレキシブルマイクMF-1A<sub>1B</sub>、ヘッドセットYH-1(マイクロホン付ヘッドホン)などの認定品があります。56ページを参照してください。

## オプション外部スピーカーの接続

外部スピーカーの接続は、スピーカーから出ているコード先端の3.5mmのミニプラグを、本体後面のSPジャックに接続してください。このプラグを接続すると、内蔵スピーカーの動作は止まります。

### SP-55定格

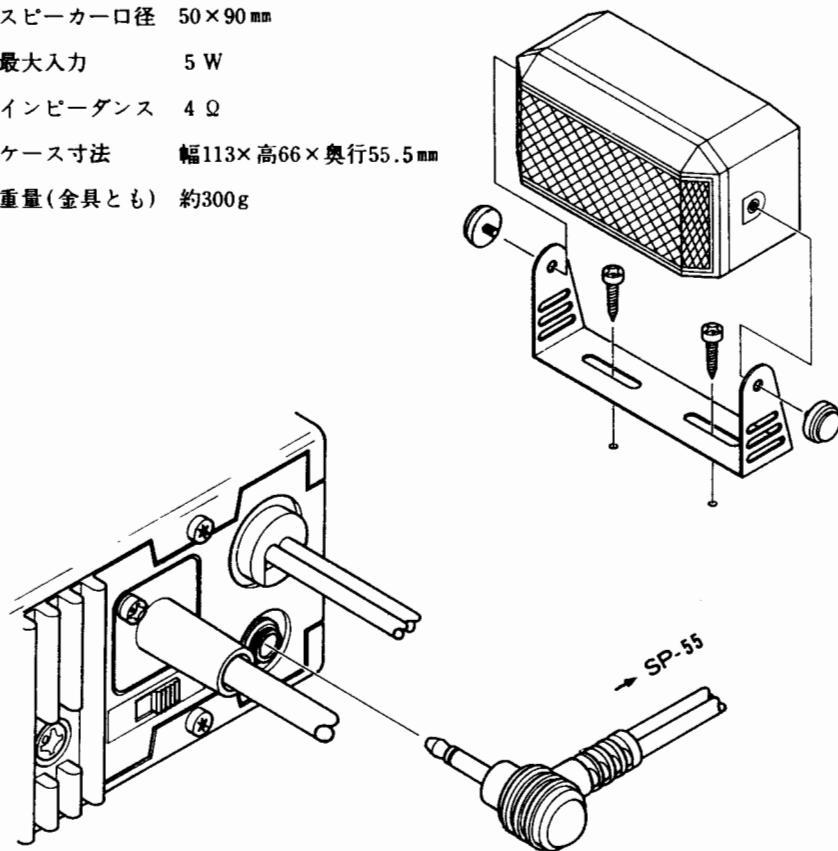
スピーカー口径 50×90 mm

最大入力 5 W

インピーダンス 4 Ω

ケース寸法 幅113×高66×奥行55.5 mm

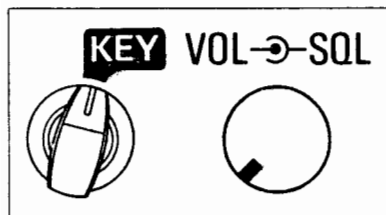
重量(金具とも) 約300g



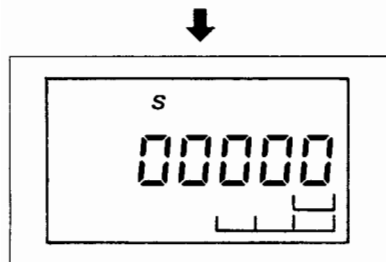
通常の通信は、46ページまでの基本操作の項目で説明してありますが本機にはさらに高度な機能がありますので47ページ以降のその他の機能と動作も参考にしてください。  
 説明文操作キーの前の⑨、①、⑩などの番号は各部の名称と動きの説明に使用した番号です。

## 使い方(基本操作)

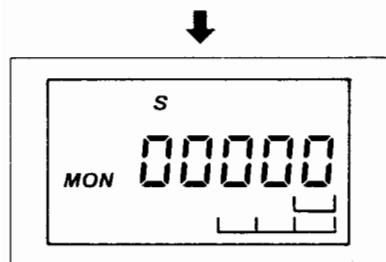
### 1. 準備



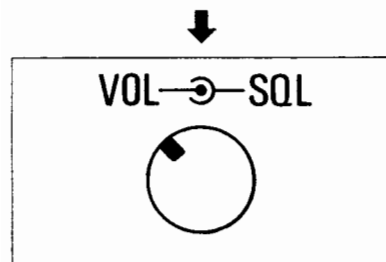
- ⑨MEMツマミを“KEY”の位置にします。
- ①VOLツマミを押して電源を入れます。  
(再び押しすと電源は切れます。)



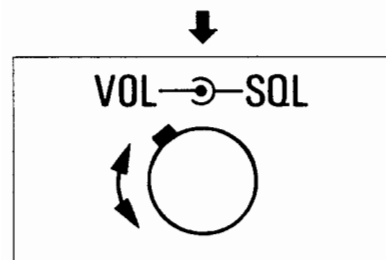
- ⑩ディスプレイに電源を切る前に表示していた群番号の表示が出ます。



- ⑦MON/HOLDキーを1秒以内のワンタッチ操作で押します。(ピロ)  
(VOLツマミを絞り切った状態では(ピロ)という操作/動作確認音は聞えません)



- ①VOLツマミを“11時”の位置にします。
- 相手局の信号が聞こえたら、最適な音量になるように調節します。



- ②SQLツマミを反時計方向に回し“ザー”というノイズが出たら時計方向へ戻し、ノイズが消える点にセットします。
- 本体の⑥RESETキー又はマイクロホンの⑱RESキーを押してリセットします。(ピロ)

## ■ワンポイントアドバイス①

### ●スケルチとは

パーソナル無線機では通話チャンネルにおいて受信時、電波の入感がないときにFM電波特有の“ザー”という雑音が出ます。この雑音を抑えるための機能がスケルチです。雑音の大きさがあるレベルを越えたことを判別して、スピーカーからの出力をカットします。この判別レベルをSQLツマミで調節することができます。ツマミを反時計方向にまわし切った状態では、弱い電波の局でも雑音と共にスピーカーから出力されますが、時計方向にまわすに従って、電波の強い局だけが出力されるようになります。通話チャンネルで交信中の時や、通話チャンネルのモニターを行う時などに使います。

## ■ワンポイントアドバイス②

### ●スケルチの調節方法

1. SQLツマミを反時計方向にまわし切ります。
2. 交信中または、モニター中に電波の入感がないときに“ザー”というノイズが出ます。
3. SQLツマミを時計方向へまわし、“ザー”というノイズが聞えなくなる位置で止めます。
4. 受信する電波が弱く声が途切れるようなときは、SQLツマミを反時計方向へ少しまわします。
5. 受信する電波が充分強い時は、時計方向へまわすと送受切換時などに出るザーというノイズが少なくなります。

## ■ワンポイントアドバイス③

### ●群番号とは

パーソナル無線ではだれもがやさしく使えること、そしてチャンネルの独占が起らないようにだれもが公平に使えることを意図しています。

そのためパーソナル無線では、チャンネルの設定やコールサイン(呼出符号)の送出手などを自動的に行うシステムを採用し、お互いに通話を行うための橋渡しは5桁の数字で構成する群番号で行います。

お互いにあらかじめ決めておいた群番号をセットすることにより、いつでも混信の少ない通信が行えます。

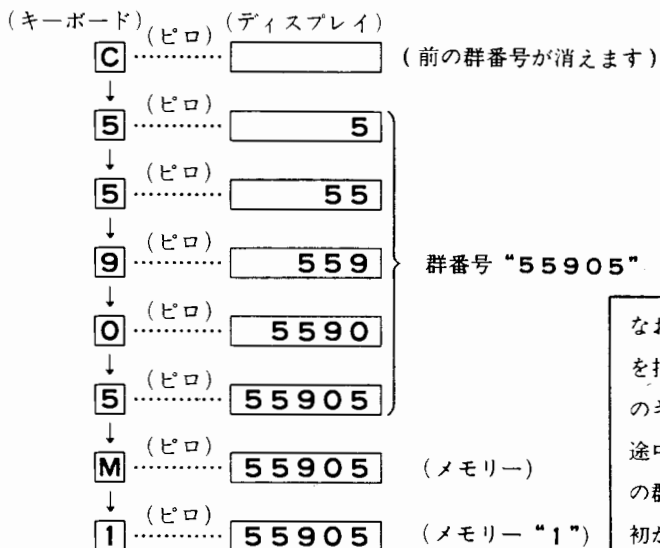


## 2. 群番号のセット

### (1) 群番号のメモリー (⑨MEMツマミが“KEY”のとき)

※ メモリー“1”に群番号“55905”をメモリーする場合には、

**C** → **5** → **5** → **9** → **0** → **5** → **M** → **1** と順に続けて押します。



なお、それぞれ1つのキーを押してから5秒以内に次のキーを押してください。途中で5秒以上あけると元の群番号に戻りますから最初から押し直してください。

※ 以上でメモリー完了です。最後の **1** を **2** にするとメモリー“2”へのメモリー、以下 **3** から **0** まで同じ方法でメモリー“3”～“0”に群番号をメモリーすることができます。

メモリー“3”～“0”までの8メモリーは送信（呼び出し）から始める交信にのみしか使用できませんから、相互に呼び出す連絡用やドライブ時の群番号は必ずメモリー“1”か“2”にメモリーしてください。（ディスプレイに群番号“00000”を表示させると、待受けは“00000”とメモリー“1”の群番号だけになります）

ただし、MEMツマミが“3”～“0”にセットしてあってもメモリー“1”（か“2”…表示が“00000”以外の時）にセットした群番号で呼び出された場合は、そのまま呼ばれた群番号に自動的に移り交信に入れ、交信が終了本体のRESETキー、またはマイクロホンのRESキーを押すか、そのまま5分経過すると元の群番号に復帰します。

※ 途中でまちがえた場合はこの操作をやり直してください。群番号の設定は“READY”が消灯しているときのみ可能です。“READY”が点灯している時は本体のRESETキーまたはマイクロホンのRESキーを押してリセットしてください。

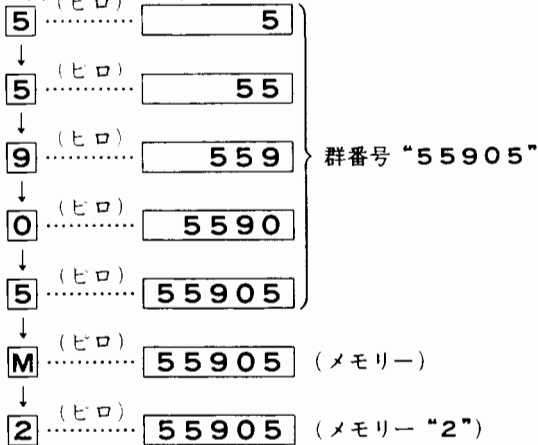
## (2) 群番号のメモリー

(⑨MEMツマミが“KEY”でないとき)

※ メモリー“2”に群番号“55905”をメモリーする場合には、

**5** → **5** → **9** → **0** → **5** → **M** → **2**

(キーボード) (ヒロ) (ディスプレイ) と順に続けて押します。



※ 以上でメモリー完了です。同じ方法で他のメモリーへ群番号をメモリーすることができます。

## (3) 群番号のメモリーの移しかえ

メモリーした群番号を他のMEMツマミの位置に移すことができます。

たとえば、メモリー“5”にセットした群番号をメモリー“1”に移す場合には MEM ツマミを“5”に合わせてメモリー“5”の群番号を呼び出し **M** → **1** と押すだけでメモリー“1”にメモリー“5”の群番号がメモリーできます。ただしメモリー“1”に入れてあった前の群番号は消えますからご注意ください。

さらに、一時的に使用する群番号をメモリー“1”～“0”のいずれかに重ねて使用でき、使用後は元の群番号に戻ることができます。

たとえば、メモリー“5”に臨時に“99999”の群番号を入れて交信したい場合、MEM ツマミを“5”にセットし **9** → **9** → **9** → **9** → **9** と数字キーを押してそのまま通信でき、交信後は **C** キーを押すか、MEM ツマミを一度他のメモリーに切り換えると元の群番号に戻ります。

#### (4) 群番号の読み出し

(⑨MEMツマミが“KEY”のとき)

1. ④キーボード“1”~“0”のキーを押すことにより、各メモリーに対応する群番号の読み出しができます。

(キーボード)	(ピロ)	(ディスプレイ)	
1	.....	55905	(メモリー“1”)
2	(ピロ).....	?????	(メモリー“2”)

2. マイクロホンの⑰SELキーを押すごとに⑨MEMツマミの内容を順番に読み出しができます。(SELキーは続けて押してください。途中で5秒以上あけて次に押すと、最初の“CQ”の位置の“00000”に戻ります。)

(マイクロホン)	(ピロ)	(ディスプレイ)	
SEL	.....	00000	(“CQ”)
SEL	(ピロ).....	55905	(メモリー“1”)
SEL	(ピロ).....	?????	(メモリー“2”)
⋮		⋮	
SEL	(ピロ).....	00000	(“CQ”)

#### (5) 群番号の読み出し

(⑨MEMツマミを“KEY”から切り換えた場合)

- ※ ⑨MEMツマミの各メモリーに対応する群番号の読み出しができます。

(メモリツマミ)	(ディスプレイ)	
1	.....	55905 (メモリー“1”)
2	.....	????? (メモリー“2”)
CQ	.....	00000 (“CQ”)

## ■ワンポイントアドバイス④

### ●パーソナル無線の交信形態

#### 1. CQコール（不特定局相手の交信）

パーソナル無線は群番号を“00000”にセットすると不特定局相手と交信ができる“CQコール”が行えます。FYA-905Aの場合MEMツマミを“CQ”の位置にすると自動的に群番号が“00000”になります。（**F**—**M**）のキー操作でも“00000”になります。

#### 2. パーソナルコール

友人または、グループで“00001”～“99999”の任意の群番号を決めておくと他のグループと混信のないグループだけの交信“パーソナルコール”が行えます。

## ■ワンポイントアドバイス⑤

### ●CQコール

アマチュア無線の“ハローCQ, CQ”と同じ意味で、不特定の相手と行う交信です。ドライブに行ったときなど、道をたずねたり、見知らぬ人と友人になったり、交通情報を交換したり、電波がどこまで届いているかを知りたいときなどに“CQコール”を行います。

自局の愛称コールサイン、氏名、現在位置などを、互いに伝え合います。交信の内容は自由ですがマナーに十分注意しましょう。

※ CQコールに応答する場合、他の局が先に応答を開始したら、そのまま交信を受信します。そしてタイミングをみはからって交信中の局の送信終了時に短かく送信して声をかけましょう。

交信中に他局から声がかかったら、仲間に入れて順番に交信しましょう。むりやり交信に割込んだり、妨害することは絶対にやめましょう。

## 2種類の通話チャンネルメモリー

一度交信した通話チャンネルと群番号を記憶する2種類の通話チャンネルメモリーがあります。

●通話チャンネルメモリーA…交信に使用していた通話チャンネルおよび群番号を交信終了後（自動復帰を含むリセット後）も5分間は自動的に記憶します。このメモリーの動作は27ページ以降の説明ではWAメモリータイマーとして説明してあります。

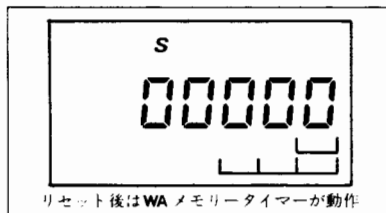
●通話チャンネルメモリーB…交信に使用していた通話チャンネルおよび群番号を15分間記憶できます。このメモリーは**F**—**1**とキーを押した時に使用していた通話チャンネルと群番号を記憶する機能で、以降の説明ではWBメモリータイマーとして49ページに説明してあります。

### 3. CQコール

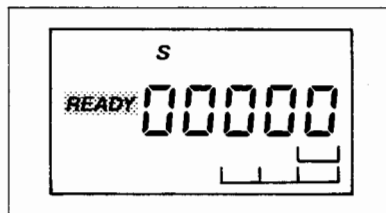
- 不特定局と交信する操作です。

#### (1) CQ送信(群番号“00000”で呼び出しから始める交信)

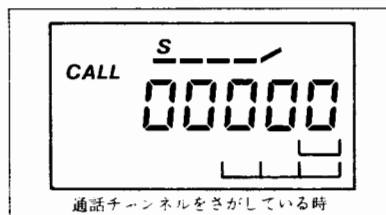
以下の説明において、**READY** は点滅、  
は消灯、**READY**などは継続した  
点灯を表わします。



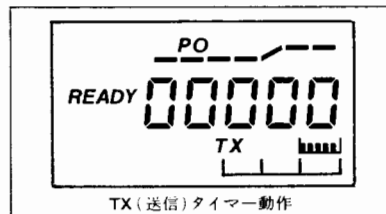
- ⑨MEMツマミを“CQ”の位置にするか
- ④キーボードにより群番号“00000”をセットします。  
(F-Mのキー操作でも“00000”になります)



- マイクロホンの⑩PTTスイッチをワンタッチ操作で押します。(ピロ)
- ⑩ディスプレイの“CALL”と“PO”およびメーターが点灯し、はなすと“READY”が点滅します。(ピロロ、ピロロ)

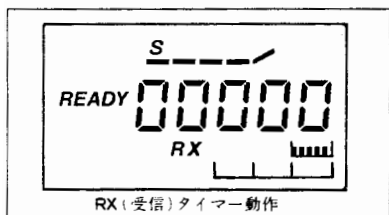


- “READY”が点滅しないときはしばらく待ち、再びマイクロホンの⑩PTTスイッチをワンタッチ操作で押します。(ピロ)
- “READY”が点滅していることを確認します。

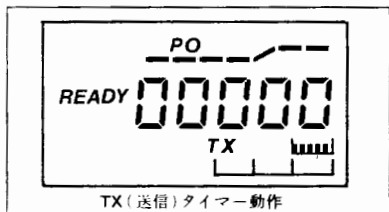


- “READY”が点滅しはじめてから10秒以内にマイクロホンの⑩PTTスイッチを押しながら、CQ呼出しをします。(ピロ)
- “READY”は点灯に変わります。

(注)⑩PTTスイッチを押したままでも、通話用空チャンネルがあれば自動的に送話可能な“READY”の点灯に進みS表示がPO表示にかわってTX(送信)メーターが点灯します。“READY”が点滅せず、ピロ、ピロ、ピロ…が15回なる時は通話用チャンネルのすべてがふさがっている時です、しばらく待ってから再びPTTスイッチを押してください。



- 応答があると“Sメーター”が電波の強さに応じて左から順に点灯します。

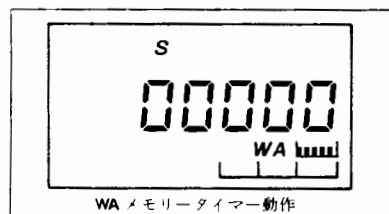


- “Sメーター”が消灯し、相手局が受信に移ったことを確認し、マイクロホンの⑩PTTスイッチを押しながら送話して交信に入ります。(ヒロ)

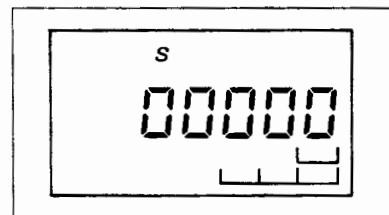


※ マイクロホンの“PTT”スイッチを押して送信状態になるときは、押したとき、離すとき、そして交信中1分ごとに呼出信号を約0.2秒間自動的に送信します。

※ 連続しての送信は5分までです。5分に近づくと10秒前に(周期が段々早くなるヒロヒロ…)の予告が始まって17つ目の終りで自動的に送信が停止します。5分タイマーの表示が右側より1分ごとに消灯し、5分経過を知らせます。



- 交信が終了したら、本体の⑥RESETキー又はマイクロホンの⑩RESキーを押してリセットします。(ヒロ)
- “READY”が消灯し、待受状態になり、同時にWAメモリータイマーが動作します。



- さらに5分経過するとWAメモリータイマーも切れます。(WAメモリータイマーが切れる時には予告はありません)

WAメモリータイマーの詳細は47ページをご覧ください。

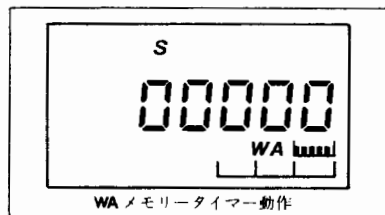
※ 再び“CQ送信”を行うときは、必ず本体の⑥RESETキー又はマイクロホンの⑩RESキーを押してリセットします。リセットしないで“CQ送信”を行うことは、応答がなかった通話チャンネルで再び“CQ送信”を行うことになり応答率は低くなってしまいます。

※ CQの呼び出し後、受信した時に複数の局から応答を受けたことがわかった場合、最後まで応答してきた局が受信に移ってから送信します。

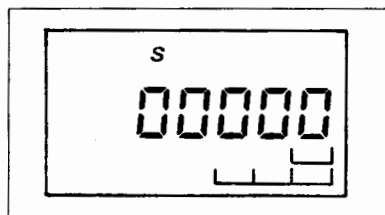
## (2) 自動復帰



● 交信終了後、本体の⑥RESETキー又は⑩RESキーを押さずにそのまま放置、約5分経過すると10秒前に周期の段々早くなる（ピロピロ）の予告が始まって17つ目の終りで



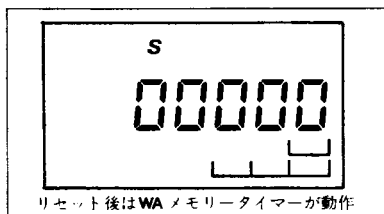
● “READY”が消灯し、自動的に待受状態になります。（この時、待機する群番号は“00000”とメモリー“1”の群番号です）



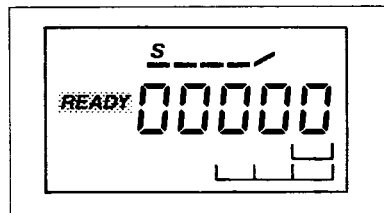
● さらに5分経過するとWAメモリータイマーも切れます。（WAメモリータイマーが切れる時には予告はありません）

※ 交信が終了しても本体の⑥RESETキー又はマイクロホンの⑩RESキーを押してリセットしないと、先に交信していた通話チャンネルに自動復帰するまでの5分間待機していることとなります。この場合他局の交信が入ってくることもあります。

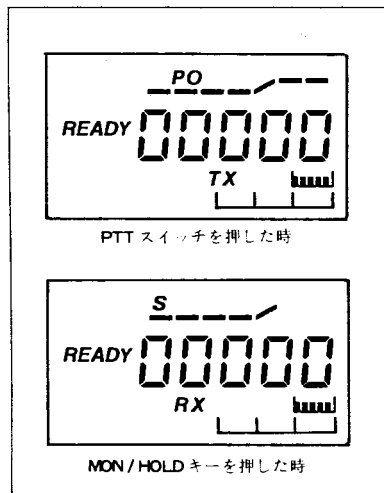
### (3) CQ受信(群番号“00000”で待ち受けから始める交信)



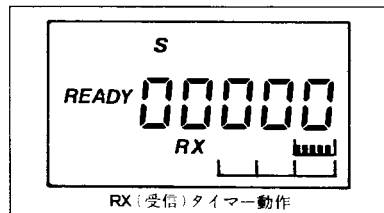
- ⑨MEMツマミを“CQ”の位置にするか  
④キーボードにより群番号“00000”  
をセットします。  
(**F**—**M**のキー操作でも“00000”  
になります)



- CQ呼び出しを受けると“READY”が点滅しSメーターが電波の強さに応じて左から順に点灯します。(ヒロロ、ヒロロ)



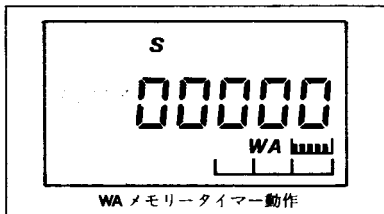
- “READY”が点滅しはじめてから10秒以内にマイクロホンの⑩PTTスイッチまたは、本体の⑦MON/HOLDキーを押します。(ヒロ)
- “READY”が点灯に換わり、相手局が送信状態を継続している間Sメーターが電波の強さに応じて左から順に点灯し続けます。



- “Sメーター”が消灯し、相手局が受信に移ったことを確認し、マイクロホンの⑩PTTスイッチを押しながら送話して交信に入ります。(ヒロ)

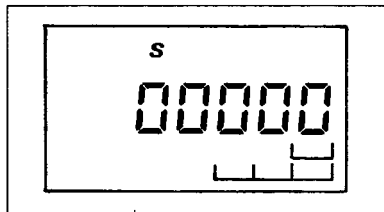






- 交信が終了したら、本体の⑥RESETキー又はマイクロホンの⑱RESキーを押してリセットします。(ピロ)

- “READY”が消灯し、待受状態になります。(この時待ち受ける群番号は“00000”とメモリー“1”の群番号です)



- さらに5分経過するとWAメモリータイマーも切れます。(WAメモリータイマーが切れる時には予告はありません)

## 自動的に動作する3種類のタイマー

### RXタイマー RX

受信状態(READYが点灯)の時間経過を示す5分タイマー(表示)です。通常交信中では相手局の送り始め、途中1分経過ごと、送信終りに出る制御信号で新規スタートになります。途中で送信操作をせず、相手局からの制御信号も入感しないで5分経過すると自動復帰のリセット状態になります。(1分経過ごとにRXタイマーの(バー)が消え5分経過の10秒前より予告信号が出ます)

### TXタイマー TX

送信状態の時間経過を示す5分タイマー(表示)です。パーソナル無線では連続5分以上の送信はできません。TXタイマーの(バー)が消えて時間経過を示します。(5分経過の10秒前より予告信号が出ます)

### WAメモリータイマー WA

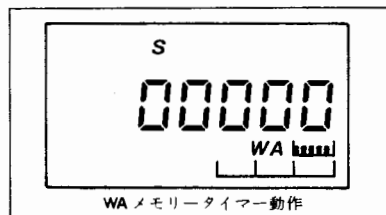
交信終了後のリセット操作や自動復帰によるリセット後、あるいは呼び出しを受けてもREADYの点滅中に応答しなかった時などにWAメモリータイマーが動作して、5分間はその通話チャンネルをメモリーします。(WAメモリータイマーが切れる時には予告信号はありません。)

このほか、**F-1**、**F-3**のキー操作で、通話チャンネルと群番号を15分間メモリーする**WBメモリータイマー**があります。(47ページ参照)

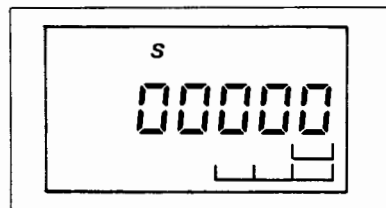
#### (4) 自動復帰



- 交信終了後、本体の⑥RESET キー又はマイクロホンの⑩RES キーを押さずにそのまま放置、約 5 分経過すると 10 秒前に周期の段々早くなる (ヒロヒロ) の予告が始まって 17 つ目の終りで



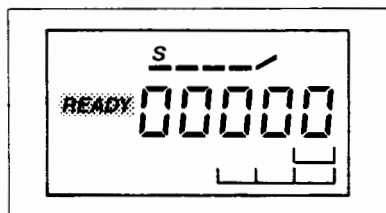
- “READY” が消灯し、自動的に待受状態になります。(この時、待機する群番号は “00000”、メモリー “1” の群番号です)



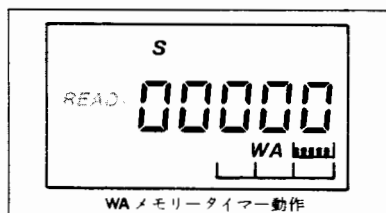
- さらに 5 分経過すると WA メモリータイマーも切れます。(WA メモリータイマーが切れる時には予告はありません)

#### (5) CQ呼出しを受けても交信したくない時

①

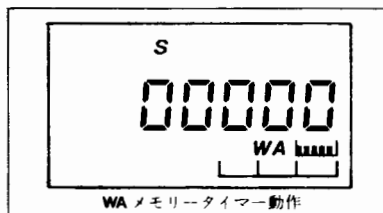


- “READY” が点滅し S メーターが電波の強さに応じて左から順に点灯します。(ヒロロ、ヒロロ)



- 本体の⑥RESET キー又はマイクロホンの⑩RES キーを押してリセットします。(ヒロ)
- “READY” が消灯し、待受状態になります。(この時待ち受ける群番号は “00000” とメモリー “1” の群番号です)

②



- CQ呼出しを受けても応答せずにそのまま放置して10秒経過すると
- “READY” が消灯し、自動的に待受状態になります。（この時、待受する群番号は“00000”とメモリー“1”の群番号です）

（さらに5分経過するとWAメモリータイマーも切れます）

## 音による操作・動作の確認 （**F**—**4**キーを押すと操作/動作確認音を止めることができます）

FYA-905Aはキー操作が確実に行われた時に操作確認音（ピロ）、また動作状態、タイマー予告などの動作確認音（ピロ ピロ）が出ます。ただし、キーを押しても操作確認音（ピロ）が出ない時はそのキーの動作が行われない時です。

### ★操作確認音（ピロ）を発する操作

- **1**から**0**までの数字キーを押した時（MON時と待受状態のみ）
- **M**か**C**又は**F**のキーを押した時、ただし**M**メモリー、**C**クリアーあるいは**F**ファンクションは一度押した場合その操作（命令）が完了するか、5秒を経過するまでは、さらに押してもその命令は受け付けませんから確認音は出ません。
- **RESET** **MON/HOLD** **RECALL** キーを押した時、ただし動作確認音ピロロ、ピロロに連続することがあります。
- マイクロホンの**PTT** **RES** **SEL** キーを押した時

### ★動作確認音

- あきチャンネルがない時、ピロピロピロ…（15回）の連続
- READYが点灯して送信可能になった時、ピロロ、ピロロ（PTTを押し続けた時は“ピロ”）
- RECALL操作を行った時、操作音に連続してピロ、ピロロ、ピロロ
- 連続送信5分、チャンネル内での連続5分の受信待機のタイマー切れ10秒前より周期が段々早くなるピロピロ…17回の予告信号
- 呼び出しを受けた場合、“READY”の点滅に応じてピロロ、ピロロ

## 4. パーソナルコール

- 特定局と交信する操作です。

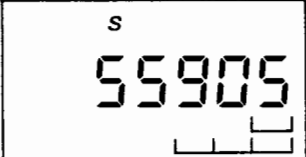
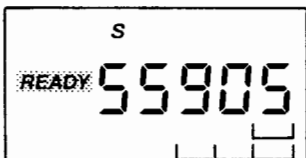
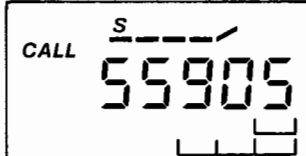
### ■ワンポイントアドバイス⑥

- パーソナルコール

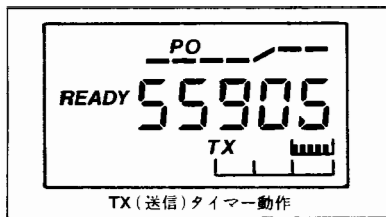
パーソナルコールとは会社や商店、家族、友人どうしの連絡など特定の相手局と行う交信です。

あらかじめ、グループどうして群番号を決めておいて“パーソナルコール”を行います。群番号が異なる他の局は交信に加わることはできませんが、モニター機能によりだれでも聞くことができます。

#### (1) パーソナル送信（あらかじめきめた群番号で呼び出しから始める交信）

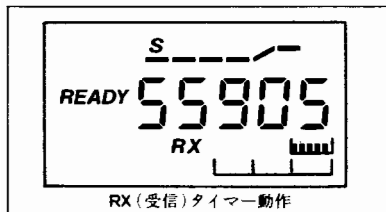
 <p>あらかじめきめた群番号を“55905”とします</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>●あらかじめ約束しておいた群番号をセットします。(MEMツマミの位置は、呼び出しも受ける場合はメモリー“1”か“2”にしてください)</li></ul>
↓	
 <p>通話チャンネルをさがしている時</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>●マイクロホンの⑩PTTスイッチをワンタッチ操作で押します。(ピロ)</li><li>●⑩ディスプレイの“CALL”と“PO”およびメーターが点灯し、はなすと“READY” (注) が点滅します。(ピロロ、ピロロ)</li></ul>
↓	
 <p>通話チャンネルをさがしている時</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>●“READY”が点滅しないときはしばらく待ち、再びマイクロホンの⑩PTTスイッチをワンタッチ操作で押します。(ピロ)</li><li>●“READY”が点滅していることを確認します。(ピロロ、ピロロ)</li></ul>

(注)⑩PTTスイッチを押したままでも、通話専用チャンネルがあれば自動的に送話可能な“READY”の点灯に進みS表示がPO表示にかわってTX(送信)メーターが点灯します。“READY”が点滅せず、ピロ、ピロ、ピロ…が15回なる時は通話専用チャンネルのすべてがふさがっている時です。しばらく待ってから再びPTTスイッチを押してください。

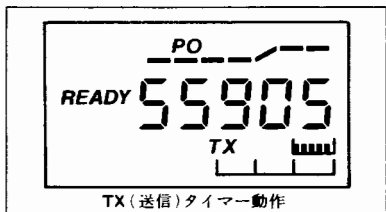


- “READY” が点滅しはじめてから30秒以内にマイクロホンの⑩PTTスイッチを押しながら、約束した相手局を呼出します。(ビッ)

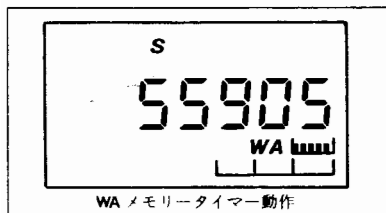
- “READY” は点灯に換わります。



- 応答があると“Sメーター”が電波の強さに応じて左から順に点灯します。

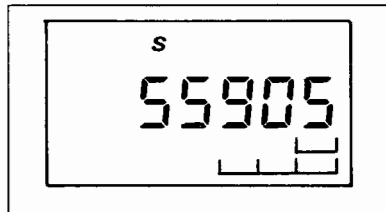


- “Sメーター”が消灯し、相手局が受信に移ったことを確認し、マイクロホンの⑩PTTスイッチを押しながら送話して交信に入ります。(ピロ)



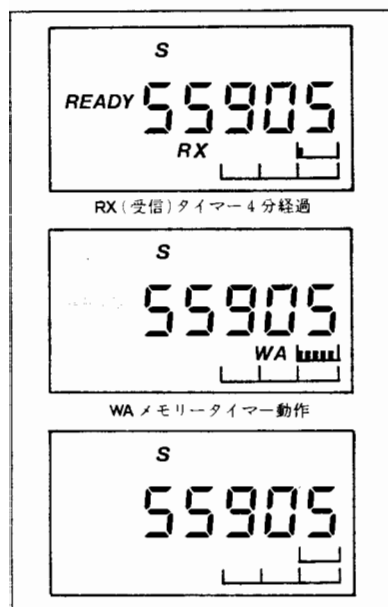
- 交信が終了したら、本体の⑥RESETキー又はマイクロホンの⑩RESキーを押してリセットします。(ピロ)

- “READY” が消灯し、待受状態になります。(この時、待受する群番号はメモリー“1”かメモリー“2”の群番号です)



- さらに5分経過するとWAメモリータイマーも切れます。(WAメモリータイマーが切れる時には予告はありません)

## (2) 自動復帰



- 交信終了後、本体の⑥RESET キー又はマイクロホンの⑩RES キーを押さずにそのまま放置、約5分経過すると10秒前に周期の段々早くなる（ピコピロ）の予告が始まって17つ目の終りで
- “READY” が消灯し、自動的に待受状態になります。（この時、待受する群番号はメモリー“1”かメモリー“2”の群番号です）
- さらに5分経過するとWAメモリータイマーも切れます。（WAメモリータイマーが切れる時には予告はありません）

※ パーソナルコールを手際良く行う方法

1. 前もって取り決めた群番号をメモリー“1”または“2”にあらかじめセットしておくこと。（表示器が“00000”の時はメモリー“1”のみになります）
2. 約束した時間にグループ全員が待受状態にあること。
3. 約束した時間に呼び出し操作を行う人を決めておくこと。
4. 約束した時間に遅れたり、交信が途切れた局を呼び戻すために“リコール”を行うこと。

### ■ワンポイントアドバイス⑦

#### ●混信したとき

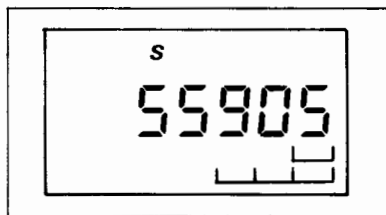
交信中にだれも送信しない状態が続いたときは、その通話チャンネルが空きチャンネルとみなされ、他のグループが同じ通話チャンネルで交信を開始して混信を起します。

また、グループでドライブしているときなど、他のグループが同じ通話チャンネルで交信しているエリアに入ると混信を起してしまいます。

このように、群番号が異っていても混信を起したときは、グループどうしで打ち合わせを行い、どちらかのグループ全員が“リセット”を行って再び“パーソナルコール”を行います。

こうして他のグループと混信を起したら、お互いにゆずり合いをしましょう。

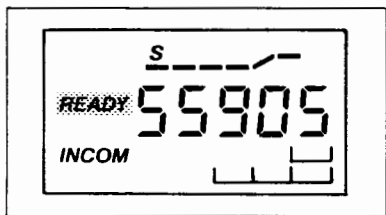
### (3) パーソナル受信 (あらかじめきめた群番号で待受けから始める交信)



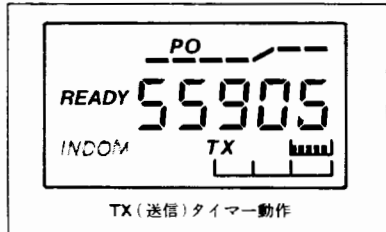
- メモリー“1”(または“2”)へあらかじめ約束した群番号をセットします。  
(表示が“00000”の時は“1”でのみ呼ばれます。)



※ MEMツマミを“3”~“0”の位置にセットしていても、メモリー“1”(か“2”)の群番号で呼ばれた時には、そのままメモリー“1”(か“2”)の群番号で交信に入れます。

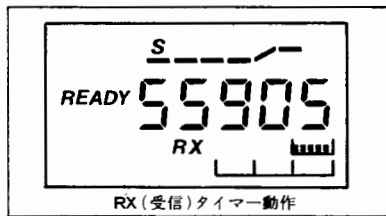


- パーソナルコールまたは、リコールを受けると“READY”が点滅し“INCOM”が点灯、Sメーターが電波の強さに応じて左から順に点灯します。(ピロロ、ピロロ)



- “READY”が点滅しはじめてから30秒以内にマイクロホンの⑩ PTTスイッチを一度押して交信待機状態にします。(ピロ)

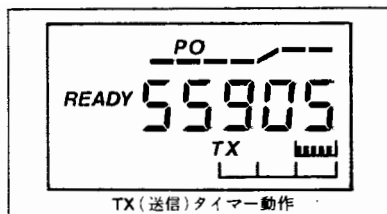
(注)



- “READY”が点灯に換わり、通話可能な状態になります。



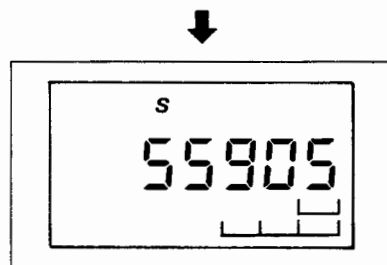
(注)“パーソナルコール”または“リコール”を受けた時、すぐに応答しなくても、30秒以内に先に呼ばれた局などからさらに呼び出しがあると自動的に“READY”は点滅から点灯にかわって交信待機状態になります。



- “Sメーター”が消灯し、相手局が受信に移ったことを確認し、マイクロホンの⑯PTTスイッチを押しながら送話して交信に入ります。(ピロ)



- 交信が終了したら、本体の⑯RESETキー又はマイクロホンの⑰RESキーを押してリセットします。(ピロ)



- さらに5分経過するとWAメモリータイマーも切れます。(WAメモリータイマーが切れる時には予告はありません)

## ■ワンポイントアドバイス⑧

### ● 交信を中断したいとき

車の給油のためにイグニッションキーをオフにしたときや、車から離れるときなど一度電源が切れてしまうと、前の交信にもどれなくなってしまいます。

このようなときは、前もって相手に連絡して“リセット”してもらいます。そして後に“パーソナルコール”を行います。

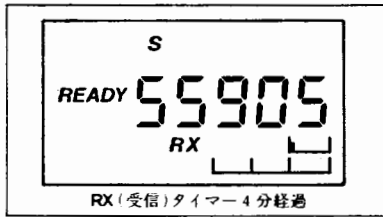
2局以上のグループで交信しているときは、相手局にときどき“リコール”を行ってもらい、呼び戻してもらいます。

モニター機能を利用して交信しているチャンネルをさがし、交信に加わることもできます。

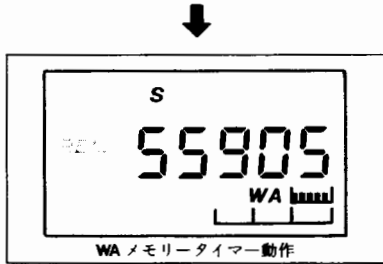
5分以上、グループ交信からはなれる時には[F]-[1]キーを押してWBメモリータイマーを動作させましょう。(5分以内の場合は自動的にWAメモリータイマーが動作します) 通話チャンネルメモリー(WA/WBメモリータイマー)による交信復帰は47ページを参照してください。



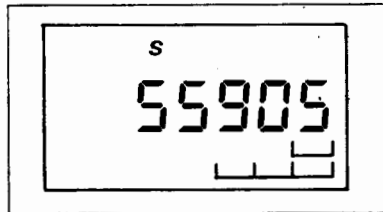
#### (4) 自動復帰



- 交信終了後、本体の⑥RESETキー又はマイクロホンの⑱RESキーを押さずそのまま放置、約5分経過すると10秒前に周期の段々早くなる(ピロピロ)の予告が始まって17つ目の終りで



- “READY”が消灯し、自動的に待受状態になります。(この時、待受する群番号はメモリー“1”かメモリー“2”の群番号です)



- さらに5分経過するとWAメモリータイマーも切れます。(WAメモリータイマーが切れる時には予告はありません)

#### ■ワンポイントアドバイス⑨

##### ● 交信が中断してしまったとき

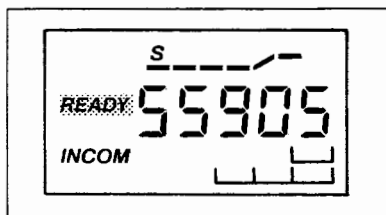
交信中に誤操作をしてしまったときや、エンストをして電源が切れてしまったときなど、突然交信が中断してしまったときは、交信していた時の群番号をセットして、さらに“リセット”して受信待機します。

そして相手局に“リコール”をしてもらうようにあらかじめ約束しておきましょう。

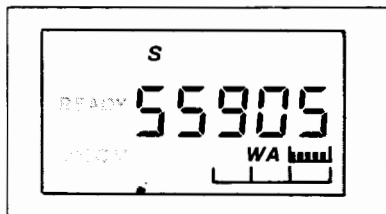
中断した時間がWAメモリータイマーが動作している5分以内であれば(WA 表示中)、RAモニターコールで、またWBメモリータイマーをスタートさせた15分以内であれば(WB 表示中)RBモニターコールで、元の通話チャンネルにリコールなしでも戻れます。

(5) パーソナルコールを受けても交信したくない時/しなかった時

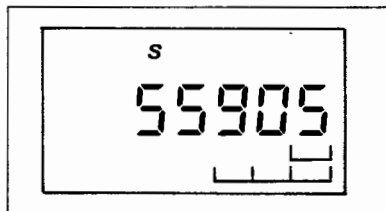
①



- “READY”が点滅しSメーターが電波の強さに応じて左から順に点灯し, “INCOM”も点灯します。(ピロロ, ピロロ)

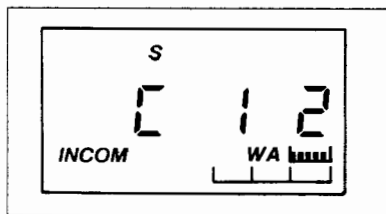


- 本体の⑥RESETキー又はマイクロホンの⑱RESキーを押してリセットします。(ピロ)
- “READY”と“INCOM”が消灯し, 待受状態になります。(この時, 待受する群番号はメモリー“1”かメモリー“2”の群番号です)



- さらに5分経過するとWAメモリータイマーも切れます。(WAメモリータイマーが切れる時には予告はありません)

②



- パーソナルコールを受けた時, 30秒以内に回答しないで放置していると, 群番号表示が消え, かわりに“C”と, 呼ばれた群番号をメモリーしたメモリー番号“1”か“2”を表示します(5分間はWAメモリータイマーが動作し, 5分経過後も“INCOM”とメモリー番号を表示し続けます。)

先に呼ばれたのがメモリー“1”の群番号, さらにメモリー“2”の群番号でも呼ばれると上の例のように, **C 1 2**, メモリー“2”で先に呼ばれ, さらにメモリー“1”でも呼ばれると **C 2 1** のように表示します。

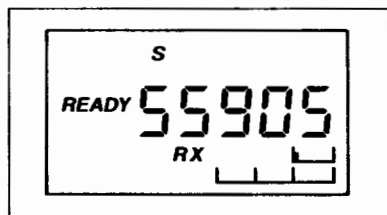
※“パーソナルコール”を受けた時, すぐに回答しなくても30秒以内に先に呼ばれた局などからさらに呼び出しがあると自動的に“READY”は点滅から点灯にかわって交信待機状態になります。

## 5. リコール

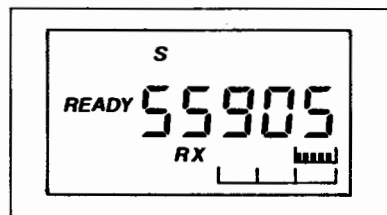
- 特定局と交信中に、相手局が自動リセットになったり、誤ってリセット操作をして交信が途絶えてしまったときに呼び戻す操作です。

※ 自局がリセット状態になったときは、“パーソナル受信”の操作を行い、相手局からの“リコール”を待ちます。

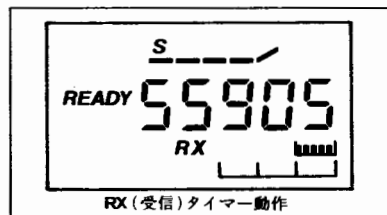
### (1) リコール呼び出し



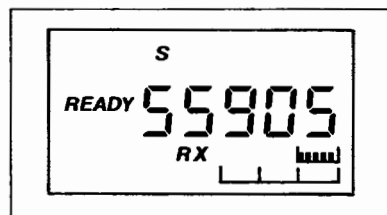
- “READY” が点灯中に、相手局の信号が聞こえなくなったとき。



- ⑧RECALLキーを押すと、(ピロ)がな  
って
- “CALL”と“PO”および“メーター”が  
一瞬点灯し“READY”の点灯に戻ります。  
(ピロロ、ピロロ)

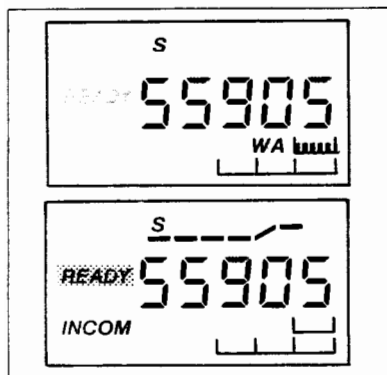


- 相手局が応答してきたら通常の交信に入  
ります。



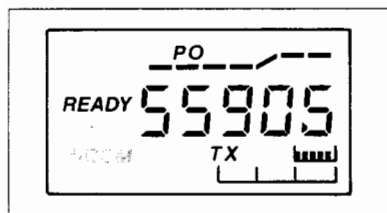
- 相手局の信号が聞こえないときは、再び  
⑧RECALLキーを押してください。

## (2) リコール呼び出され

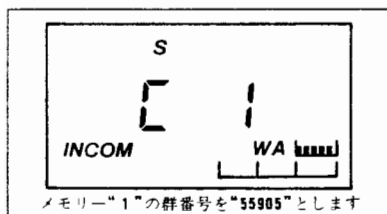


● 特定局と交信中に、交信が途絶えてしまった時にはリセット操作をして待ちます。  
(ピロ)

● リコール呼び出しが入ると“READY”が点滅、“INCOM”が点灯します。  
(ピロロ、ピロロ)



● 応答すると“INCOM”が消え“READY”が点灯して通常の交信に戻れます。



● リコール呼び出しを受けてそのまま放置30秒経過すると、呼ばれた群番号をメモリーしたメモリーチャンネルの番号表示にかわります。(5分間はWAメモリータイマーが動作し、5分経過後も“INCOM”とメモリー番号を表示し続けます。)

### ■ワンポイントアドバイス⑩

#### ●リコール

パーソナルコールで交信中に相手局が誤って“リセット”してしまったり、ドライブ中に電波到達エリアから外れてしまい、通話が5分以上途切れて自動的に“リセット”になった場合など、“READY”が消灯して受信待機状態になってしまった相手局を呼び出す機能が“リコール”です。

通話チャンネルに残って交信を続けている局(“READY”点灯)の方から“RECALL”キーを2~3度押してから、マイクロホンの“PTT”を押しながら「〇〇さん、きこえますか?」と呼びかけます。

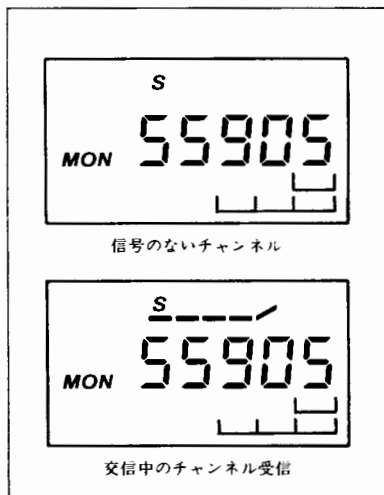
“リコール”を受けた局は“READY”が点灯して元の交信に入ることができます。

1. 時間設定のグループ交信の時、約束時間に遅れてしまった局を“リコール”により呼び込むことができます。ときどき“RECALL”キーを押してみましょう。
2. 受信待機状態になってしまった局の方から“RECALL”キーを押してもリコール操作による復帰はできませんが、WAメモリータイマーが自動的に動作している5分以内、およびWBメモリータイマーを動作させた時(49ページ参照)の15分以内には、交信チャンネルを記憶していますから、メモリーをよみ出し、モニターコール(45ページ参照)の方法で通話中だったチャンネルに戻れ、交信が続いている局の制御信号が入ると“READY”が点灯して交信可能になります。
3. 群番号“00000”では、リコール操作はできませんが、モニターコールによるチャンネル復帰はすべての群番号で動作します。

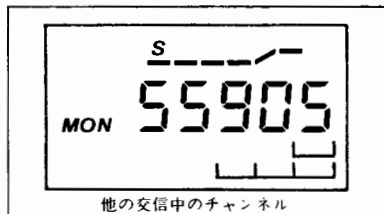
## 6. モニター

- 他局の交信をモニター受信する操作です。(ステップモニター、サーチモニターともチャンネルの順序はランダムで、エンドレスに動作します)

### (1) ステップモニター

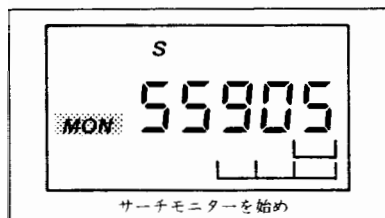


- ⑦MON/HOLDキーを1秒以内のワンタッチ操作で押します。  
(群番号に関係なくモニターできます)
- “MON”が点灯し、ステップモニターに切り換わります。(ピロ)

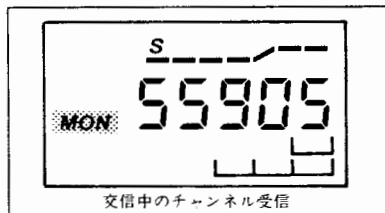


- ⑦MON/HOLDキーを押すごとに、1チャンネルずつランダムに切り換わり、他局の交信をモニターできます。(押すごとにピロ)

## (2)サーチモニター



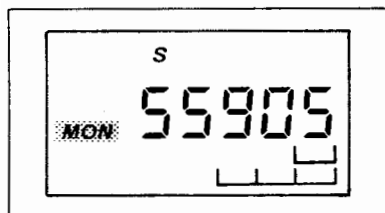
- ⑦MON/HOLDキーを約1秒間“MON”が点滅するまで押します。(ピロ)



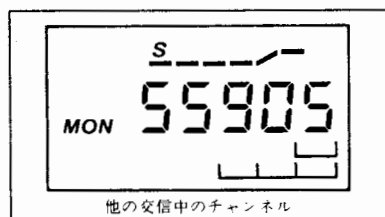
- “MON”が点滅すると、サーチモニターに切り換わり、交信中のチャンネルを自動的にさがし信号が受かると“MON”は点滅したままその信号を5秒間受信します。



(途中で信号がなくなっても5秒間はストップしています)

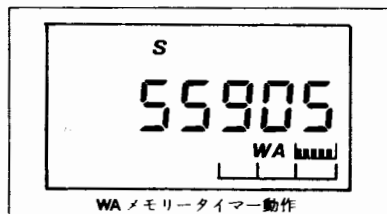


- 5秒経過すると再びサーチモニターを始め、他の信号をさがします。



- サーチモニターで受信した信号をそのまま聞きたい時は、受信している5秒の間に⑦MON/HOLDキーを押します(ピロ)
- “MON”は点灯に変わり、その信号を継続受信できるステップモニターになります。

### (3) モニターの解除



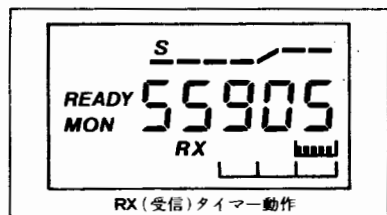
- 本体の⑥RESETキー又はマイクロホンの⑩RESキーを押してリセットします。(ピロ)
- “MON”が消灯し、待受状態になります。

サーチモニター中にリセットした時にはWAメモリータイマーは動作しません。

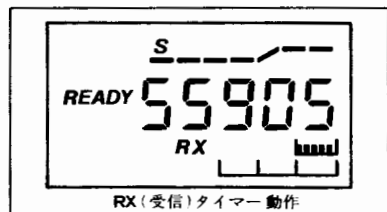
## 7. モニターコール

- 他局の交信をモニター受信している時、受信した局と自局のメモリー“1”が“2”（表示が“00000”の時はメモリー“1”が“00000”）の群番号が一致すると交信できます。

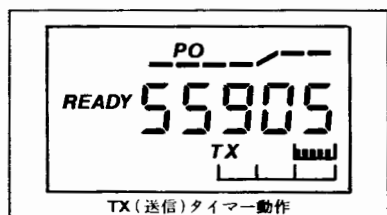
(1)



- モニター中に受信した他局と自局の群番号が一致すると“READY”が点灯します。(ピロロ、ピロロ)

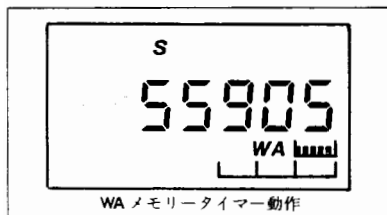


- マイクロホンの⑩PTTスイッチを押すと“MON”は消灯します。(ピロ)



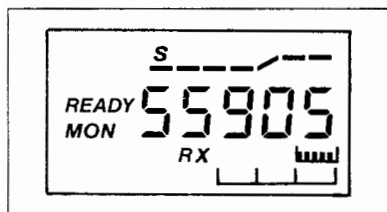
- マイクロホンの⑩PTTスイッチを押しながら送話し、交信に入ります。



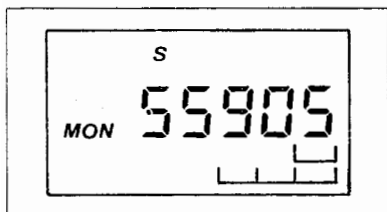


- 交信が終了したら、本体の⑥RESETキー又はマイクロホンの⑩RESキーを押してリセットします。
- “READY” が消灯し、待受状態になります。

## (2) “READY”が点灯しても他局を受信したいとき



- ⑦MON/HOLDキーを押してモニター受信操作を行います。(ピロ)  
(あらたなステップモニターまたはサーチモニターで別のチャンネルを受信します)



- “READY” が消灯し、他局のモニター受信が行えます。

## ROMカートリッジなしでの操作のしかた

- ① 電源、アンテナ、マイクロホンを正しく接続して電源スイッチを入れます。  
(右上のVOLを押す)
- ② ROMカートリッジなしでの操作は、基本操作とほぼ同じですが、マイクロホンの⑩PTTスイッチを押しても送信できません。
- ③ ただし、CQコール、パーソナルコール、モニターコールの送信を除くすべての動作ができますので、ROMカートリッジが振興会より送付されるまで、操作に慣れることができます。(リコールも送信操作になるためROMカートリッジなしではできません)



## その他の機能と動作

### 1. F(ファンクション)キーによる機能

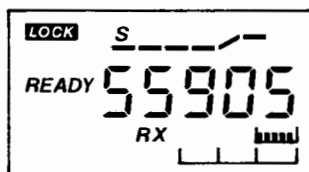
**F**キーを1回押した後、5秒以内にキーボードの**I**、**3**、**4**、**6**、**M**、**O**、**C**のキーを押すとキーの上側に表示してある機能が動作します。

**F**—**4**と押す **BEEP**

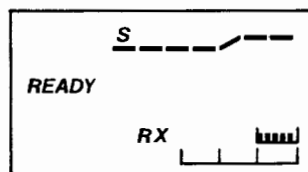
**F**—**6**と押す **BLANK**

**F**—**C**と押す **LOCK**

の3つの動作は、基本操作として6ページに説明してあります。また群番号“00000”を簡単に設定できる**F**—**M**と押す**CQ**については27ページ、30ページなどで説明してあります。



**F**—**C**と押したロック状態の表示例



**F**—**6**と押したブランク状態の表示例

**F**キーを一度押した後、再度押しても取消しにはなりません、そのまま放置、5秒経過すると自動的に解除になります。

**F**キーにより命令した機能は、再度同じキーを押すことにより解除できます。またこれらの命令は一度電源を切るとすべて解除になります。

### 2. WAメモリータイマーの機能と使い方

基本操作の中でWAメモリータイマーが動作などと略記してありますが、ここではWAメモリータイマーが動作中に行える機能についてご説明いたします。

- 1) 通話後(“READY”が点灯していた時)リセットするとWAメモリータイマーが動作します(自動復帰を含む)。通話後にリセットした時のほか、ステップモニターからのリセット操作(“READY”は消えたまま)、**CQ**コールを行って応答がなかった10秒後、あるいは

はパーソナルコールを行って応答がなかった30秒後(この間“READY”は点滅)にも WA メモリータイマーが動作します。

- 2) WA メモリータイマーは、上記の条件で自動的に動作し、ステップモニター後のリセットでは、通話チャンネルとメモリー“1”と“2”の群番号を記憶し、他の場合は通話チャンネルと通話に使用した群番号を記憶します。
- 3) 通話チャンネルや群番号を記憶している時間は待ち受け状態の5分間で、その間に待ち受けしている同じ群番号の他の信号に呼ばれたり、PTTスイッチを押したりすると、記憶していた通話チャンネルなどのメモリーはその時点で消去になり、あらたに設定した通話チャンネルで待ち受けすることになります。
- 4) WA メモリータイマーが動作している5分の間は、先に通話していたチャンネルで続けられている交信に、再び簡単な操作で戻れる RA モニターコールができます。

#### RAモニターコールの操作

- a) **F**—**O**と押すRA操作を行うと“MON”が点灯して先に通話していたチャンネルが受信できますからそのまま待機し、交信中の局の制御信号が入感するのを待ちます。
- b) 制御信号が入感すると、“MON”表示の上に“READY”が点灯して前の通話チャンネルに戻れ、PTTスイッチを押すと“MON”が消灯して、“READY”のみが点灯する通話状態になります。(WAメモリータイマーが動作中に、**F**—**O**と押すRAのキー操作を行うと、直ちに記憶していた通話チャンネルがモニター受信でき、モニターコールが可能になります……45ページ参照)
- c) このRAモニターコールによる方法は、リコール操作による方法では呼び戻されない群番号“00000”の場合でも元の通話チャンネルに戻れます。
- d) **F**—**O**キーと押すRAモニターコールの操作を行うと、その時に呼び戻された群番号を一度メモリー“2”に記憶して動作します。例えばメモリー“1”に群番号“55905”、メモリー“2”に“55915”をメモリーさせておき、“55905”で交信し、再度RAモニターコールで元の交信に戻るとメモリー“1”の群番号は“55905”のまま、メモリー“2”の群番号も“55905”にかわりそれ以前にメモリーしていた“55915”は消えてしまいますのでご注意ください。
- e) RAモニターコールを行った後では、上記のようにメモリー“1”およびメモリー“2”の群番号が入れかわったりしますから、交信が終わったあとでは、常時お使いになるためにメモリーしていた群番号がかわっていないか確認してください。

### 3. WBメモリータイマーの機能と使い方

- 1) **WA**メモリータイマーの動作を15分間記憶し続けるのが**WB**メモリータイマーです。
- 2) **WA**メモリータイマーはリセットなどをすると自動的にメモリーし、タイマーが動き出しますが、**WB**メモリータイマーは、次の条件の時に入力( **F**キーに続けて **1**キーを押す)でき、その時点より動作します。

#### WBメモリータイマーを動作できる時

- “READY” 点灯している交信待機状態の時。
  - “READY” が点滅している連絡設定中の時。
  - “READY” が消えて、“MON” が点灯中のステップモニターの時
  - サーチモニターで“MON” が点滅中でも5秒間サーチを停止して信号を受信している時。(ただし、この場合はサーチが続くのでMON/HOLDキーを押してサーチを止めてから記憶させないとRBモニターコールを行っても希望する通話チャンネルにならないことがあります。)
  - **CALL**の点灯中(当初の呼出操作中やリコール呼出中)には**WB**メモリータイマーは設定できません。
- 3) **WB**メモリータイマー表示は**RB**モニターコールを行った時および15分タイマーが切れた時に消えます。
  - 4) **WA**メモリータイマーは途中で送信操作を行ったりすると**TX**タイマー(送信時)、**RX**タイマー(受信時)、を経て**WA**メモリータイマーがあらたに動作し始めますが、**WB**メモリータイマーは**F**—**1**とキーを押した時からスタートする独立したタイマーです。
  - 5) **WB**タイマーが動作中に、先に通話していたチャンネルで続けられている交信に再び戻るには、一度**RESET**をし待受状態で**F**キーに続いて**3**キーを押す**RB**操作を行い、記憶していた通話チャンネルをモニターし(“MON”が点灯)交信を続けていた局が発射する制御信号により“READY”が点灯して交信可能になります。(RBモニターコール)
  - 6) **RB**モニターコールを行うと、**RA**モニターコールと同様に、その時の群番号をメモリー“2”に記憶して動作します。そのためメモリー“2”に記憶していた群番号が変わることがありますから**RB**モニターコールを行った後は、**RA**モニターコールを行った後

と同様に交信が終ったあと、いつもお使いになる群番号がメモリーしてあるか確認してください。

- 7) **WBメモリータイマー**は、動作している15分の間にさらに[F]—[1]のキーを押すと、その時点の状態をあらたに記憶する**WBメモリータイマー**がスタートします。

## ご 注 意

電源スイッチを切った時や、エンジン始動時の大電流によるバッテリー電圧の低下により“リセット”された場合には**WA/WB**両メモリータイマーの動作は停止します。

## 4. INCOM機能について

37ページなどに**INCOM**表示の動作として簡単に説明してありますが、機能として説明を加えます。

- 1) **INCOM**機能は、不在時などに呼び出され、直ちに応答しなかった場合に、その間に呼び出しがあったことを知らせる機能で、直ちに応答する場合でも同じように表示します。
- 2) 群番号を、一般呼出しの(CQ)“00000”以外に設定したパーソナルコールにおいて、メモリー“1”か“2”にメモリーした群番号にて呼び出しを受けると、表示器左側の“**INCOM**”が点灯し、呼ばれた群番号を表示します。
- 3) その後30秒経過(“**READY**”が点滅の場合)又は5分経過(“**READY**”が点灯の場合)に自動的に待ち受け状態に戻ると“**INCOM**”はそのまま点灯しながら群番号表示は、その時呼び出しを受けた群番号をメモリーしていたメモリーの番号“1”か“2”を表示します。
- 4) メモリー“1”の群番号とメモリー“2”の群番号の両方での呼び出しがあれば、左の“C”に続いて呼ばれた順に“1”、“2”あるいは“2”、“1”のように表示します。
- 5) “**INCOM**”表示は**PTT**スイッチを押して送信するか、**RESET**キーあるいは**F**(ファンクション)キーを押すと消えます。  
(**PTT**スイッチを押した時は、先に呼ばれた群番号であらたな呼び出しを行うことになります)

## 故障？と思う前に

故障修理を依頼される前に、次のことをお確かめ下さい。

### (1) 電源が入らない

- ① 無線機から電源(バッテリー)までのケーブルは正しく接続されていますか。  
(折曲げ部分、引込部分などの点検も)
- ② バッテリーの電圧は正常ですか(セルモーターを回してエンジンがかかりますか)
- ③ 電源ケーブルのヒューズは切れてませんか。ヒューズは赤線、黒線の両側に入っていますから両方共点検して下さい。ヒューズが切れていた場合は、電源ケーブルが正しい位置に接続してあるか、電源ケーブルの絶縁が破れてショートしてないかなどヒューズ切れの原因を調べ正常にしてからヒューズを交換して下さい。

### (2) 電源は入るが、送信も受信もできない

- ① 無線機とアンテナが正しく接続されていますか。アンテナやプラグの根元、折曲部分、引込部分で同軸ケーブルが傷んでいませんか。(断線、ショート)

### (3) 受信できない(スピーカーから音が出ない)

- ① パーソナル無線機は、待受状態にあるときはキー操作の信号音以外の音は出ません。
- ② 音量調節つまみ(VOL)を反時計方向に回し切っていませんか。
- ③ スケルチつまみ(SQL)を時計方向に回しすぎていませんか。(MON/HOLD ボタンを押して、信号又はザーという無信号時の雑音が入りませんか)

### (4) 送信できない

- ① 無線機のREADY表示がついていますか。(送信操作の手順を再度調べてください)
- ② マイクロホンは無線機に完全に接続してありますか。
- ③ 電波振興会より返送された符号書込済のROMカートリッジが正しく取り付けられていますか。

## (5) (呼び出し)から始める交信はできるが、待ち受けできない

- ① 待ち受け時にリセットしていますか
- ② 群番号が一致しているのに、呼びかけやリコールが受けられない。しかしこちらから呼び出すと交信ができる場合は、メモリー“1”か“2”にその群番号を入れかえる。(メモリー“1”と“2”は呼びかけ、待ち受け両用、“3”から“0”は呼びかけ専用です。呼びかけ専用メモリーの群番号でも一度連絡がとれば交信は可能です。ただし、群番号“00000”を表示している時はメモリー“2”では呼ばれません)

## (6) 感度が悪い

- ① アンテナは正しく取付けてありますか。エレメントが折れ曲ったり、他の金属部分に触れたり接近していませんか。
- ② 同軸ケーブル、コネクタ部に異常はありませんか。  
(引込部、折り曲げ部などに無理な力がかかってませんか)
- ③ 電源電圧(バッテリー)が低下していませんか。
- ④ アンテナの周辺(現在の位置)がビルなどの障害物に囲まれていませんか。
- ⑤ 同軸ケーブルが細かったり、必要以上に長くありませんか。

## (7) メモリーが消える(バックアップできない)

- ① バックアップ電池が放電していませんか。長期間電源を切ったままにするとバックアップ電池が放電してメモリーが消えます。数時間電源を入れてバックアップ電池を充電してください。

## (8) 電源は入るが操作できない

- ① 電源投入時に、静電気等の外部要因により無線機が誤動作することがあります。
- ② 無線機の底ケース右側に丸いシールがあり、これを取ると小さい穴が開いておりますから、その中を爪楊枝のような絶縁物で押してください。無線機の動作は正常になります。但し、メモリーに記憶させた群番号は消えて待受状態になります。

## (9) エンジンを始動したら運用状態が変わってしまった

- ① エンジン始動時の大電流により、バッテリーの電圧が低下してリセット状態になったと思われます。12~14ページを参照して電源関係を点検してください。

## 定 格

### 一般定格

電 波 型 式	F2D(制御チャンネル) F3E(通話チャンネル)
周 波 数 範 囲	903.0125-904.9875MHz
通 信 方 式	単信方式
発 振 方 式	水晶発振制御周波数シンセサイザ方式
変 調 方 式	周波数変調方式
周波数安定度	±3 ppm
寸 法	140(幅)×50(高さ)×166(奥行) mm
重 量	約1.5kg
電 源 電 圧	直流13.8V マイナス接地
消 費 電 流	待受時 約0.5A, 送信時 約2A
空中線インピーダンス	50 Ω

### 送信部

送 信 出 力	5W
最大周波数偏移	±5kHz
スプリアス発射強度	-60dB以下
占有周波数帯域幅	16kHz以内

### 受信部

受 信 方 式	ダブルスーパーヘテロダイン方式
中 間 周 波 数	第1 58.1125MHz 第2 455kHz
20dB QS 感 度	-4dB $\mu$ 以下
スプリアスレスポンス	60dB 以上
相互変調特性	60dB $\mu$ 以上
音 声 出 力	2W 以上(8Ω 負荷)

### 制御部

符 号 形 式	NRZ等長符号
変 調 方 式	MSK変調
信号伝送速度及び偏差	1200bit/s ±200×10 <sup>-6</sup> 以内
制御信号による周波数偏移	±2.5kHz~±5kHz
マーク周波数及び偏差	1200Hz ±200×10 <sup>-6</sup> 以内
スペース周波数及び偏差	1800Hz ±200×10 <sup>-6</sup> 以内

## オプション

- 純正アンテナ(パーソナル無線普及促進協議会認定品)

	YHA-902 (車載用)	YHA-903 (車載用)	YHA-907 (基地局用)
アンテナ形式	3段ホイップ	7段コリニア	7段コリニア
周波数	903-905MHz	903-905MHz	903-905MHz
インピーダンス	50Ω	50Ω	50Ω
定在波比	1:1.5以下	1:1.5以下	1:1.5以下
利得	7dB(絶対利得)	7dB(絶対利得)	7dB(絶対利得)
重量	約220g	約350g	約750g
エレメント全長	910mm	1104mm	1120mm

- 純正アンテナ基台

YHB-3 NR ルーフサイド式(適合アンテナ YHA-902, YHA-903)

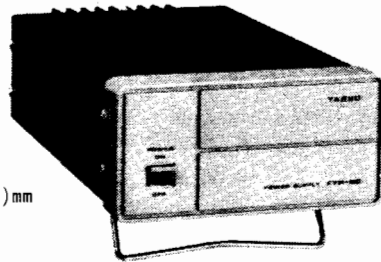
YHB-3 NT トランクリッド式(適合アンテナ YHA-902, YHA-903)

RSM-600N ベランダ用アンテナ基台( " " 同軸ケーブル別)

- 基地局用電源

FYP-80 交流100V用電源装置

定 格	
入 力	交流100V 50/60Hz
出力電圧	直流13.8V
出力電流	最大 3A
ケース寸法	118(幅)×57(高)×237(奥行)mm
重 量	約2.2kg

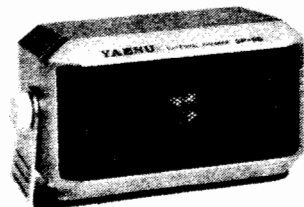


FYP-80

- 外部スピーカー

SP-55

定 格	
スピーカー口径	50×90mm
最大入力	5W
インピーダンス	4Ω
ケース寸法	66×113×55.5mm



SP-55





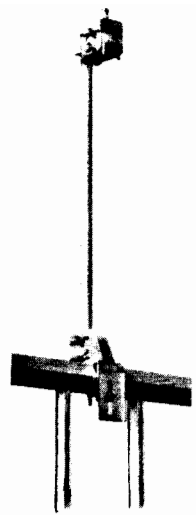
YHA-902



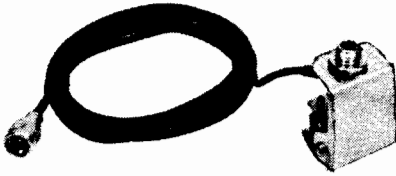
YHA-903



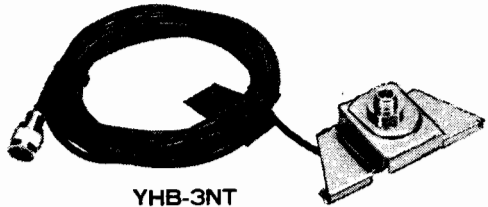
YHA-907



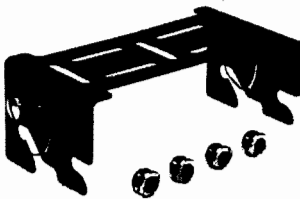
RSM-600N



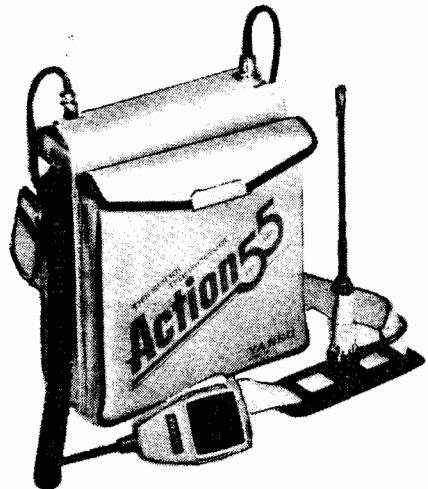
YHB-3NR



YHB-3NT



MMB-26



CSC-8

- ワンタッチ型モバイルブラケット      MMB-26
- モービルマイクロホン                  MF-1 A3B (SB-5 併用)
- ヘッドセット                              YH-1 (SB-5 併用)
- スイッチボックス                        SB-5
- スピーカーマイクロホン                MH-10 D1
- DC-DCコンバータ                        FDC-2
- キャリングセット                        CSC-8

(キャリングケース、ショルダーベルト、アンテナ基台、アンテナYHA-904 付)



MF-1 A3B



YH-1



SB-5

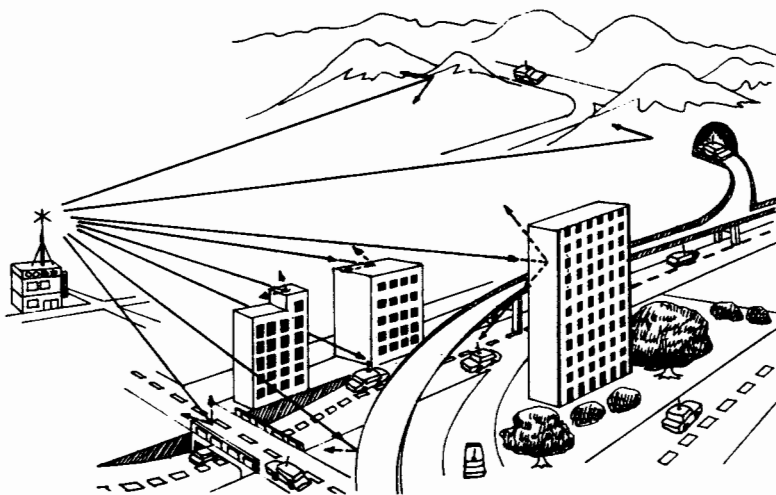
# パーソナル無線に使用する電波の性質

パーソナル無線は、900MHz帯という、極めて高い周波数の電波を使用する無線通信です。

この900MHzという電波は、AMのラジオ放送に使用する中波(MW)帯、海外放送、国際通信、などに使用する短波(SW)帯などとは異なり、波長約33cmのUHFの電波です。

UHF帯の電波は、UHF・TVでご存知のように、光の性質に近づいた電波で、山頂からなどのように見通しの良い場所からは比較的遠方まで電波が届きますが、市街地などではビルのかげになったりすると電波の減衰がはげしい周波数帯です。

下の図に基地局を中心にした、種々の障害物や反射による電波の伝わり方の様子を示してありますので参考にして下さい、わずか数メートル移動するだけで急に信号が弱くなったり、浮かび上がることがあります。



# YAESU

Choice of the World's top DX'ers

## 八重洲無線株式会社

営業部 〒146 東京都大田区下丸子1-20-2

札幌営業所/サービス 〒003 札幌市白石区東札幌2条2-3-17 ☎ 011(823)1161  
東北営業所/サービス 〒962 福島県須賀川市森宿字ワツロ田43 ☎ 0248(76)1301  
北関東営業所/サービス 〒332 埼玉県川口市弥平1-5-9 ☎ 048(222)0651  
関東東営業所 〒146 東京都大田区下丸子1-20-2 ☎ 03(3759)9181  
名古屋営業所/サービス 〒457 名古屋市南区戸部町2-3-4 ☎ 052(811)4949  
大阪営業所/サービス 〒542 大阪市中央区上汐1-4-6 吉井ビル ☎ 06(764)4949  
広島営業所/サービス 〒733 広島市西区己斐本町2-12-30 SKビル ☎ 082(273)2332  
福岡営業所/サービス 〒812 福岡市博多区上牟田1-16-26 第2山本ビル ☎ 092(482)4082  
サービスセンター 〒332 埼玉県川口市弥平1-5-9 ☎ 048(222)0651

# ★パーソナル無線基本操作図

